



## 理事長・学長就任挨拶

理事長・学長 細井 裕司

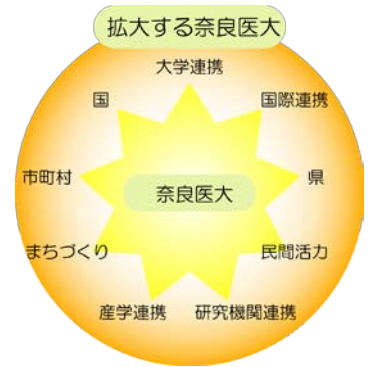
6年の長きにわたり大学に貢献されました吉岡章先生のあとを引継ぎ、4月1日に理事長・学長に就任いたしました。私は本学を卒業後、近畿大学医学部を経て、15年間本学の耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座を主宰してまいりました。また、附属病院副院長、公立大学法人の理事として奈良県立医科大学の運営に携わってまいりました。本学を内と外から見てきた経験を生かし、2年前より始まった「奈良医大、全国医学部中20年後トップ10」を実現すべく尽力する所存です。

そのために、世の中の変化を先取りする、県との信頼関係のもとに大学を発展させる、ハードとソフトを充実させ教職員が働きやすい環境整備を行う、単科大学の欠点を補うために他大学、研究機関等と相互主義に基づく連携を構築する、民間の活力を奈良医大に生かす、新キャンパスに伴うまちづくりを行う等を実行していきます。

奈良医大発展のイメージは右図の通りです。中心の奈良医大は小さな大学ですが、他機関との空間的・機能的連携により大きな大学になれると思っています。



大学をとりまく環境が厳しくなる中、みなさまとともに力強い大きな大学へと前進したいと思えます。ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## Contents

理事長・学長就任挨拶.....	1	■平成26年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算 .....	20～21
■退任挨拶.....	2～3	■産学官連携だより／■第21回 中島佐一学術研究奨励賞受賞者が決定しました.....	22
■卒業式式辞.....	4～5	■ヒトゲノム・遺伝子解析研究研究会を開催しました／	
■新たなる旅立ち.....	6	■第3回 女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました／	
■退任挨拶.....	7	■ハラスメント防止研修会を実施しました.....	23
■就任挨拶.....	8～11	■女子中高生の医理系進路選択支援「医理系の研究って、すっごくおもしろい！」を開催しました／■県民公開講座「がんタウンミーティング」を開催しました.....	24
■法人の新しい組織.....	12	■臨床研修修了式を開催しました／■認知症疾患医療センター研修会を開催しました／■院内コンサート～お箏（こと）の音色～.....	25
■役員・教育研究審議会・経営審議会名簿／■知的障害のある男女5名が仲間に加わりました～3月24日（月）採用式を実施～.....	13	■医療安全・感染対策の職員研修の充実に取り組んでいます／■長期療養児童在宅医療・在宅訪問推進研修会活動.....	26
■大和漢方医学薬学センター開設及び「キックオフセミナー」の実施／		■部門紹介（B病棟4階・B病棟5階・B病棟6階）.....	27
■寄附講座「人工関節・骨軟骨再生医学講座」の設置期間を延長.....	14	■平成25年度後期 公開講座「くらしと医学」を開催しました／	
■平成26年度学事計画（医学科・看護学科）.....	15	■平成25年度 学会等における論文賞等の受賞一覧 .....	28
■平成26年度入学試験を実施しました／■Student Doctor 制度を開始します／■平成25年度 学位授与の状況 .....	16	■レポート .....	29
■国際ソロプチミストの奨学金受給者に決定／■医学研究学生フォーラム 奈良医大と三重大にて開催／■チェンマイ大学との交流.....	17	メディア掲載情報／下ツ道／広告 .....	30
■クラブ紹介（合気道・社会医学研究会）.....	18		
■図書館だより.....	19		

## 退任挨拶

### 退任のご挨拶

理事長・学長 吉岡 章

3月末をもって、2期6年間の理事長・学長を退任いたしました。思えば、1964年(昭和39年)の本学入学からちょうど50年、私はここ奈良医大で生まれ、成長し、小児科学医師、血液専門医・研究者、小児科学教授、附属病院院長、そして学長としての人生の歳月を重ねました。医学を志し、医療に携わり、学生を教育するという仕事は、実に私のモットーである「夢・喜び・やりがい」の3Yにふさわしい、豊かな50年でありました。就中、理事長・学長としての6年間は多くの教職員、学生、そして関係者の皆様方に支えられて、さらに充実した日々でありました。本学とお世話になった全ての方々へ心から感謝申し上げます。

2008年、私は10項目のマニフェストを掲げました。その主なものは、大学移転と施設の新・改築及びアメニティーの改善、経営の健全化、医師・看護師と医療職の確保、FDとSD、看護学教育の充実と修士大学院、外部資金の確保と寄附講座、国際交流センターと大学連携、治験センターの設立、診療科再編とセンター化による高度先進医療、そしてサバティカル制度の導入でした。このうち、最後の項目を除いてほぼ完遂～推進することが出来ました。加えて、財政規模を約300億円から400億円へと急成長させ、後半3年間は単年度黒字化を果たしました。これらは学報Vol.47(2014)で「新年のご挨拶～地域医療を支え世界に羽ばたく“グローバルな奈良医大を目指して”」で詳述しましたが、これからは全て教職員の意識改革、精励、そして経営・運営の努力が実を結んだものと高く評価し、厚く御礼を申し上げます。

この6年間で予定外の大きな変化にも迅速に対応し、改革を成し遂げました。

教育面では、医学科入学定数を95名から113名へと増員。文科省の教育GP採択を得て地域基盤型医療教育コースを設置。県との連携の下「地域枠」や「緊急医師確保枠」「医師確保修学研修奨学生」を採用し、地域医療に貢献する人材を育成することですすでに8名の医師を県内公立病院に配置中であります。

将来の基礎・社会医学者の育成を目指して、早稲田大学・関西医科大学とのコンソーシアムの下、公立大学初の「研究医枠」(2名)を設置。早大から2年次編入学生を受入れています。看護学科でも定数を80名から85名に増員し、編入学生5名も採用しています。大学院修士課程を開設し、看護師教育の充実に努めました。



研究面では、外部競争的資金の獲得に努め、科研費の採択件数・助成額は1.5倍に、また、産学官連携推進センター、女性研究者支援センター、なかよし保育園改築拡充、寄附講座(5講座)と県補助金講座(2講座)を設立し、研究と診療活動の実を上げています。

国際交流センターを設置し、Oxford大学、Ruhr大学等海外4大学、早稲田大学、奈良先端科学技術大学院大学、同志社女子大学と連携協定を結び、実際に学生や教員が移動し合っています。

診療面では、22診療科と中央診療部門(10部、14センター、4室)を中心に、県民のための高度先進的医療を提供。多くのセンターを新設し、利用者の求める分かり易い、かかり易い医療の提供と病院アメニティーの改善にも努め、病院機能評価のVer.6認定を取得しました。

昨年11月にはE病棟第1期工事が竣工し、がんにて特化した治療施設と医師を配置しました。また、病院機能を支える中央検査部門を強化しました。28年度には完了し、全面運用となります。平成26年度の本学附属病院の臨床研修マッチング率は56/57(98%)と過去最高となりました。診療助教制度も立上げ、医師の確保は順調に進んでいます。

また、病院外での地域医療貢献として、公開講座や健康サポーター講座、藤原京スタディーの他、震災・災害支援のDMATや学生ボランティア奈良WILLも活躍しました。

以上、第1期中期計画は9項目中7項目が達成に向けて順調に、また、2項目も概ね順調に進んでいると高い評価を受けました。

本学は第2期中期目標・計画期間(平成25～30年度)に入りました。従来からの「教育」「研究」「診療」「法人運営」の各要素に加え、新しく「地域貢献」と「まちづくり」を掲げ、ハンドブックに明記しました。

私は将来の奈良医大は、「グローバルに生きる」ことであると考えます。グローバル(世界レベル)とローカル(地域レベル)の両面を重視し、双方のレベルとバランスにおいて全国一のモデルたりうるグローバルな医科大学・附属病院となることとあります。グローバルの面では、世界に通用する医療人を輩出すると共に世界レベルの医学研究と高度先進医療を実現すること、ローカルの面では、地域医療に貢献する医療人を着実に育成すると共に、県民の幅広い医療ニーズへの対応と健康づくりへの貢献により、日本一の健康長寿立県の実現に寄与することとあります。

新しい細井理事長・学長、古家病院長、車谷医学部長を中心に、引続き一致団結して難局を乗り越えて、さらに「地域医療を支え、世界に羽ばたくグローバルな奈良医大」を目指して下さい。

## 退任挨拶

### 退任挨拶

副理事長 橋本 弘隆

記録的な大雪となった2月も下旬を迎える頃、退任の挨拶を書いて下さいと言われ、一瞬ええ？もうそんな時期かと思いました。任期を終えることは承知していましたが、こんな大事な時期に去ることになるのかと急に寂しさを覚えると共に自分はこんなにも奈良医大が好きだったのだということに気づきました。

その本学は今、大きな転換点に立っています。教育・研究部門の移転は医大にとって千載一遇の好機、その好機を控え、本年は、中期計画の一丁目一番地である医師配置センターの運営、目指すべき将来像と施設整備の基本的考え方をまとめた「基本構想」の策定、改正医療法



への対応など、本学の将来を決定づける勝負の年になると言ってきました。

課題も多く、立ちは大壁は大きいですが、教職員の皆さんが一丸となって「チーム医大」として夢の実現に向け取り組んでいただければ、本学が大きく飛躍・発展することは間違いないと確信をしています。壁は大きいほど未来も大きく明るいものです。皆様方のご活躍をお祈りしております。

私は、本学を最後の職場として「会社人間」を卒業します。

3年弱という短い期間でしたが、この間、吉岡理事長・学長をはじめ皆様には大変お世話になりました。そして、第2期中期計画の策定など思い出に残る仕事に携わらせていただき、楽しく仕事をさせていただきました。それもこれも、第一線で頑張っていたいただいている皆様のお陰だと心から感謝をしております。本当にありがとうございました。

### 退任挨拶

医学部長  
細菌学 教授 喜多 英二

本年3月末をもちまして、37年間勤めた奈良医大を定年退職することになりました。

「熱帯感染症」に興味を抱き、開発途上国での医療活動を夢見て、学部4回生の時に恩師榎葉周三教授の部屋を訪れたのが、「感染免疫」一筋の研究生活の始まりでありました。細菌学教室と阪大微研（加藤四郎教授研究室）を行き来して、病原細菌やウイルスの取扱い方などの指導を受けた日々、業室研究生として「チフス菌の病原性」に関する研究に取り組んだ日々が、全てが昨日のこの様に思い出されます。業室研究生時代に、何度も細菌学会やウイルス学会での発表の機会も与えられ、震えながら演壇に立った日のこと、発表スライドと読み原稿がずれて恥をかいたこと、大御所から厳しい質問を受け戸惑ったこと等、今は懐かしい思い出であります。それでも、学会場で多くの著名な研究者と面識を得られたことは、その後の研究生活において大いに役立ちまし



た。大学院時代に副科目として臨床研修を2年間、留学先の東南アジアの伝染病院でも臨床を2年間経験させていただきました。臨床を経験するほど、基礎研究の重要性をより強く感じ、細菌学教室で腰を据えて基礎研究に没頭することを決意し、今日に至りました。基礎研究は地味で孤独なものと思われがちですが、同じ道を歩むライバルとの競争は限りなく刺激的で、新しい発見や研究成果の論文発表は限りなく楽しいものでありました。今の学生諸君にこんな楽しさを旨く伝えられなかったことが、残念でなりません。

本学にどれ程お役に立てたのかは定かではありませんが、この数年は研究・教育以外に大学運営にも深く携わらせていただき、後輩達にとって学びやすく、研究しやすい環境作りに多少なりとも貢献できたのではと、思っております。

本学が4月から新しいリーダーの下で、第二期中期目標・計画達成に向かって着実に歩を進められることを、心から願っております。

私ごとき輩が今日まで大過なく、本学教員として誠に充実した楽しい時を過ごすことができましたのも、良き教室員、良き同僚に恵まれたお蔭と、感謝に堪えません。長きに渡り誠にありがとうございました。



## 平成 25 年度 卒業式式辞 「漢方と和食で 生活様式の変革を」

前理事長・学長 吉岡 章

医学部 医学科を卒業する 96 名、看護学科を卒業する 87 名の諸君、卒業おめでとう。奈良県立医科大学を代表して心からお祝い申し上げます。

これは、何よりも諸君の弛まぬ努力の結果であります、それと同時に、今日まで諸君を慈しみ、育ててくれたご両親・ご家族の皆様、諸君の人間形成や教育に御指導を賜った教職員並びに友人や関係する皆様のお陰であることも忘れないで下さい。

医学科卒業生諸君は、いよいよ臨床研修が始まります。諸君の中で本学附属病院を中心としたプログラムを選択した人は 56 名で、定数 57 に対して 98% とほぼフルマッチでした。奈良県全体で見ますと、研修医定数枠 104 名に対して充足数は 94 名 (90.4%) で、全国第 3 位と極めて高いものでした。

看護学科卒業生のうち 34 名と大学院修了者 1 名の計 35 名が本学附属病院に内定しました。また、県内就職者は計 49 名 (56%) であり、第 2 期中期目標値である 60% に向けて着実に増加して来ています。

本学では、本年度から第 2 期中期目標・計画期間に入っています。最重要課題である地域医療貢献、就中、医師・看護師の育成については、医学科では卒業生諸君が入学した平成 20 年度から定数を順次増員し、平成 22 年度からは 113 名としています。「地域枠」の他「緊急医師確保枠」や「医師確保修学研修奨学生」を選抜して、地域医療に貢献する意欲に溢れた人材の育成が着実に進行して来ています。

看護学科では、平成 24 年度には入学定数を 80 名から 85 名に増員しました。また、大学院修士課程を開設し、看護学教育の高度・充実化に努めており、この 3 月には第 1 期生が卒業します。また、4 月からは、新しく「看

護実践・キャリア支援センター」を開設し、専任の上平悦子特任教授を配置します。また、スキルスラボもさらに充実して、学生と看護職員のキャリアアップを推進します。

本学では、この 3 月に「大和漢方医学薬学センター」を立ち上げました。これは奈良県の進める「漢方のメッカ推進プロジェクト」と呼応して、本学が漢方の教育・研究・診療活動を「未来志向の漢方」として取り組むものです。慶應義塾大学の渡辺賢治教授と京都府立医科大学の三谷和男教授という漢方の未来を背負う東西のエキスパートを本学特任教授として招聘して、本格的に進めるプロジェクトです。

この「未来志向の漢方」には、四つの重要な側面があります。医学・医療としての側面、医療政策としての側面、産業政策としての側面、四つ目は社会思想・生活様式としての漢方という側面です。このうち、一つ目の医学・医療の側面では、漢方の有効性の検証 (EBM) や IT 化・ビッグデータ、そして個別化医療が課題です。四つ目の漢方の持つ社会思想への影響や生活様式の変革に繋がる側面は、漢方の持つ自然との共生やスローライフ、そして「医食同源」に通じます。私はこの点を強調したいと思っています。





漢方はまた、食事で育む「食育」、食事で治療する「食療」、食事で養生する「食養」といった概念と共通しています。漢方はわが国の抱える超超高齢社会の持つ諸々の難題に対する我々医療人から発することが出来る有効な処方箋の一つになります。

諸君は、これからの医師・看護師としてのキャリアの中で欧米型の高度先進医療を学び、実践することは当然のことではありますが、同時にここ奈良・大和から始まった漢方にも理解を深め、漢方の優れた面である生活様式の変革と言う側面を今後の医療に取り入れて行って下さい。

折しも、日本食・和食がユネスコの無形文化遺産に登録されました。政府はようやく国民、特に子ども達の食事を通じての「食育」に力を入れ出しました。米国上院農業委員会のマクガバン報告では、文明先進国の生活習慣病の要因は不自然で偏った食生活にあり、日本食・和食が理想的な手本であると述べています。

日本食の中心であるコメは低カロリーで、かつ、タンパク質とミネラル、ビタミンも十分含んでいる上、同時に食べる大豆食品や魚、野菜、海藻は栄養学的にも絶妙の組合せであります。この点は、天理市出身の村上 和雄筑波大学

名誉教授も強調されています。村上先生は世界に先駆けてレニンとアンジオテンシンⅡ受容体をクローニングされ、また、イネの全遺伝子構造解明のプロジェクトリーダーをお務めになった著名な分子生物学者です。先生はもう一つ「日本食の特色の一つは旨味（うまみ）である」と強調されています。鰹節や昆布からの「出汁（だし）」には日本食独特の旨味がこもっています。出汁は、太陽や大地、空気、水、海といった大自然の恵みでもあります。まさに「天の恵み」とも言うべきものが和食であり出汁であります。

このように、漢方を考え、和の食を考える時、私達は日常生活様式、生活態度にまで思いを馳せることとなります。どうか諸君、これからの日常生活と医療活動の中で、大自然と大地からの「天の恵み」である和の食を常に意識し、感謝の念を持って下さい。必ずや人生と生活の中に健やかな身体と豊かな心、そして穏やかな社会を育んでくれるものと信じます。

めでたく本学を卒業して、医師・看護師となる諸君は、本学において基本的な知識と技能、そして医と看護の心を学びました。今日からは、患者さん、そして地域住民の病と健康に専門職としての能力と責任をもって診断と治療、そして予防とケアを担って行くのです。そのためには、志を高くもって、自らを磨かねばなりません。さらに長い時間とつらい努力を重ねての豊富な経験が必要です。

最後になりますが、医学科第59期生、看護学科7期生の諸君と同様、私も6年間の理事長・学長職を卒業します。思えば、1964年（昭和39年）の本学入学からちょうど50年間、私はここ奈良医大で生まれ、成長し、そして医師、研究者、教授、病院長、学長として人生の歳月を重ねました。医学・医療に携わり、学生を教育するという仕事は、実に私のモットーである「夢、喜び、やりがい」の3Yにふさわしい豊かな50年でありました。本学と家族、友人、そして お世話になった全ての方々に心から感謝申し上げます。

最後の最後になりますが、卒業生諸君の長い人生の御無事と医師として、看護師としてのそれぞれの旅の豊かならんことを祈ります。



# 新たな旅立ち

## 医学部卒業式 大学院修了式 平成 26 年 3 月 17 日

今年も223名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。(223名:医学科96名、看護学科87名、大学院医学研究科博士課程21名、同修士課程10名、看護学研究科修士課程9名)  
また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。(敬称略)

### 奈良県立医科大学学長賞 医学科 6 年間または看護学科 4 年間の課程で最も優秀な成績を収めた者



医学科 きたの たいと  
北野 泰斗

この度は、このような素晴らしい賞をいただきありがとうございます。この6年間、本当にたくさんの方々にお世話になったと感じています。実習で丁寧に指導いただいた先生方、学生にも関わらず快く診察を許していただき、暖かい言葉をくださった患者さん、クラブや勉強会で楽しい時間を共にした先輩方、同級生、後輩と毎日私を支えてくれた家族のおかげで卒業を迎えることが出来たのだと感謝の気持ちでいっぱいです。たくさんの人と人のつながりの中で、私を含め同級生が無事に奈良県立医科大学を卒業させていただくことができたのだと心から実感しております。

4月から一医師として働くにあたり、右も左も分からずたくさんの方に迷惑をかけてしまうかもしれませんが、この奈良医大で教えていただいたように、常に患者さんのことを考えて精いっぱい頑張らせていただきたいと思います。私自身は奈良県の奨学生ですので、奈良県内で働かせていただくことになりましたが、自分の生まれ育った地域で医療者として働けることを大変光栄に思っています。この6年間、大学をはじめたくさんの奈良県内の病院や診療所で実習させていただき、先生方やメディカルの医療者、患者さんが本当に暖かく私達学生に接していただき、素晴らしい教育環境の中、実習させていただきましたことに本当に深く感謝いたします。今後、奈良県の医療に少しでも貢献させていただけるように知識・技術面だけでなく様々な面でより良い医療が行えるようにこれまで以上に努力していきます。

最後になりましたが、今までお世話になった先生方、先輩、同級生、後輩、そして家族に心から感謝致します。今後もご指導、ご鞭撻の程よろしく願いたします。



看護学科 まつむら ゆき  
松村 裕生

この度は学長賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。

大学での4年間はあっという間でした。入学式当日で印象的なのが、大学職員の方が学生ひとりひとりの席を回り同窓会費を集金して下さった後での、全員に向けてのお話。「今職員に対して目を見て感謝を述べたり、職員の手間を省けるよう自分から名乗る・お金を封筒から出し揃えて渡したりした様に、思いやりも兼ね備えた人・看護師になってもらいたい」と仰いました。小さな事ですが、このような人を愛する心・思いやりを持ち、行動でも表せる人間になると入学時に目標を持ち、時折この言葉を思い出していました。

学生生活を振り返りますと、勉強以外の事にも積極的に取り組む多忙な日々でした。その中で、いつも支えてくれた家族、多くの課題で苦しんでいた時に励まし合った友人、周りへ気遣いが出来る尊敬する友人、アドバイスを下さった先輩方、熱心に指導して下さった先生・実習指導者の方々、受け持たせて頂いた患者さん、学生生活を支えて下さった教育支援課の方々、男女・学科・年代関係なく濃い繋がりを作ることが出来たギター部、4年間での様々な出会いが私を大きく変え、先述した目標に近付き、大学生活も充実したものとなりました。皆様にご場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

4月からは看護師として、社会人として、思いやる心を常に持ち、これらの方から受けたご恩を返していけるよう努めて参ります。

### 奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞 甲学位論文申請者のうち、最も優れた論文の申請者



まつい まさる  
松井 勝

この度は研究奨励賞という栄誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。このような賞を頂けるとは全く思いもよらぬことでしたが、循環器・腎臓代謝内科学講座の齋藤能彦教授、上村史朗准教授をはじめとする多くの先生方に御指導を頂いた賜物であり、諸先生方に深謝致します。

私は医学部卒業後、奈良県立医科大学で臨床研修を受け、その後は他府県で臨床医として研鑽しておりましたが、大学院への進学については大きな葛藤がありました。基礎研究の分野は未知なる世界、自分にとっては大きな試みになることはわかっていましたが、一歩踏み出す勇気はなかなか出ませんでした。「今まで臨床のみであった私に基礎研究ができる

のか」、今でもその不安はありますが、年齢32歳になってここで学ばなければ一生学べないであろうと教授に叱咤激励され、平成22年より大学院へ進学致しました。

私の研究課題は慢性腎臓病患者に心血管疾患が合併しやすいということが最近、知られておりますが、そのような心腎連関の分子機序を解明することでした。そして、「ヘパリン負荷後において動脈硬化抑制因子であるsFlt-1は腎機能障害の進行に伴って減少するとともに心血管疾患の予測因子にもなる」という新しい知見を得ることができました。

最後に私が研修医時代から教授より頂き、胸に刻んでいる3つの言葉があります。「患者に優しく」、「教えられ上手になれ」、「志は高く」。今はまだ研究者としては若輩者、ただし「志は高く」というのを掲げ、この奨励賞の名に恥じぬようにこれからも研究に励んでいこうと思っています。

### 医学科同窓会厳樞賞、看護学科同窓会華樞賞

1. クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者(ヒーローオブザクラス)
2. ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
3. クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳樞賞: てらい たいち 寺井 太一 えのもと なおすけ 榎本 尚助  
 華樞賞: ぬかだ はるひ 額田 春妃 かわかみ なおこ 川上 奈緒子 おかまつ みさき 岡松 美咲

## 退任挨拶

### 退任にあたって

総務・経営担当理事

大西 峰夫



平成24年4月1日付けで、総務・経営担当理事に就任してから、2年の任期を満了し、本年3月末日をもって退任することになりました。

この間、役員、教職員の皆様に、ご協力とご支援をいただきましたことに心より御礼申し上げます。

私が着任した平成24年度は、平成19年に本学が法人化されて以降取組まれてきた第1期中期目標・計画の最終年度であったことから、その目標

の達成とともに、新たな第二期の中期目標・計画の目標の設定及びその着手に微力ではありますが、関わらせていただきました。

新たな中期目標・計画は、すでに動き出していますが、地域貢献や大学の移転、整備、まちづくり構想を含む大変大きな計画となっており、計画期間の今後6年間は、20年、30年後の将来にわたっての法人の方向性を決めていく大変重要な大きな変革の時期になると思います。

本学はこの4月から細井新理事長のもとで、新たな発展に向けてスタートすることになりますが、すべての教職員の皆さんが心一つにして、この目標・計画の実現に向け取り組まれることにより、それが本学のさらなる飛躍と発展につながることを願っています。

### 退任にあたって

輸血部

教授 藤村 吉博



本年3月末に退任時期を迎えました。本学を卒業して41年目となり、1996年10月に輸血部教授に就任させて頂いてからは17年余りを経たことになります。本学での輸血部教授職の設置は、当時、国公立大学では東大、京大に次いで全国で3番目であり、この人事は(旧)日本輸血学会にも大きなインパクトを与え、以後、名古屋大、和歌山県立医大、福島県立医大、そして九州大に、次々と輸血部教授職が設けられました(九州大は遺伝細胞治療部と名称変更)。

(新)日本輸血細胞治療学会からは、退任後の平成26年度に、奈良で総会長としてこの学会を主催することを推挙され、熟慮の上これを受諾しました。理由は、1)我々は血液難病TTPに対する輸血治療EBMを確立した、2)恩師であった福井弘小児科教授が第31回(旧)総会を奈良で開催しておられ、同所での開催は実に31年ぶり、故福井先生の供養にもなる、3)現在、同総会には医師、技師、薬剤師、看護師等、総勢2000-2500人の参加が見込まれるので、地元への経済効果も期待できる、4)他学に先んじて輸血部専任教授職を設けて頂いた事に対する責務を果たすことができる、また、5)新任の輸血部教授のお披露目もできる、の5点であります。

任期中、ライフワークであったVWF-ADAMTS13関連研究が血液難病TTPの診断と治療に結びつき、2008年にベルツ賞を受賞したことは望外の喜びでした。これを到達点と一時は考えましたが、これ以降、欧州への招聘講演、受託研究、武田科学特別研究費の受賞など、想定外の事が次々と起こりました。輸血部の構成員は少人数ですが、学外研究者の協力を得ながら、これら身近にいる人々を育てて結果を出し、上記受賞に繋がった事をここで改めて御紹介しておきたいと思っております。最後に、奈良医大の尚一層の御発展を願っております。

### 退任挨拶：学報誕生記

第一生理学

教授 山下 勝幸



退任にあたり、この学報が誕生した経緯を記します。元学長の吉田修先生が本学に着任された当初、学内での正確な情報を共有する媒体が無いことに気がなされました。そこで学報の創刊を提案され、編集委員長に私が指名されました。各部署から選出された編集委員9名とともに、内容の構成や記事のレイアウトを考え、平成14年5月30日にやっと第1号を発刊しました。何度も校正原稿を読み返しますので、皆様に配布する時はほとんどの文章を暗記している状況でした。その後、編集後記の愛称として、“下ツ道”が選ばれました。私が編集委員長を務めた6年間は、まさに本学の改革期でした。最後に、第1号と第5号の編集後記の一部を付記して退任の挨拶といたします。

『この度、新学報が発刊されることになりました。この学報は、本学がどの方向に動いているのか、今後どう動いていこうとしているのかを“見える”ようにすることにより、本学の教職員が本学の情報を共有し、大学人としての意識の高揚と大学の更なる発展を図ることを目的に年4回発行するものです。(第1号)』；『編集後記のコラム名として“下ツ道(しもつみち)”を拝借いたしました。本学の東側を平城京から明日香まで南北に貫く古道幹線の呼び名です。一筋の道を究めることは大学人が忘れてはならないことです。(第5号)』

### 3人が名誉教授に

平成26年4月1日付けで3人の先生に名誉教授の称号が授与されました。

■ 吉岡 章 理事長・学長

■ 喜多 英二 医学部長(細菌学 教授)

■ 藤村 吉博 教授(輸血部)

## 就任挨拶

### 副理事長就任挨拶

～夢に向かって  
着実な歩みを～

副理事長 林 洋



この度橋本前副理事長の後任として、4月1日付けで副理事長に就任させていただきました。

私は大学卒業後、国（建設省・農林水産省等）及び奈良県で、それぞれ20年近くずつ行政の仕事に携わってきました。

直接医療関係の仕事に携わるのは今回が初めてですが、非常に重要で私自身も大変関心の高い分野です。これまで携わってきたまちづくりや民間との連携・民間活力の活用、危機管理等の仕事の経験もぜひ生かして取り組んでいければと、前向きな思いを強くしております。

就任前後にかけて、理事長はじめ前理事長、前副理事長さらには県知事等から、「20年後トップ10」や「地域・県民への貢献（医師・看護師の輩出等）」など、それぞれ奈良医大についての大きな夢、熱い思いを伺わせていただきました。

奈良医大（特に法人として）の第一印象は、思っていた以上に在勤してきた国や県さらには（社）平城遷都1300年記念事業協会等の関係機関に近い感じで、親しみやすさ・なじみやすさを覚えています。

細井理事長が辞令交付式で述べられた「現在奈良医大は移転整備という大きなチャンスを迎えている。皆でこれを最大限生かして、ぜひ明るい未来を描いていきたい。」旨の言葉を胸に刻んで、夢の実現に向け着実に前進していけるよう、理事長の補佐役として、またチーム役員・チーム奈良医大の一員として、微力ながら全力を尽くしてまいります。

どうか宜しくお願い申し上げます。

### 総務・経営担当理事 就任挨拶

総務・経営担当理事 山下 昌宏



この度、4月1日付けで理事（総務・経営担当）、事務局長を拝命いたしました。

2年半前、法人企画部長として着任以来、吉岡前理事長・学長のもと、やりがいを持って業務に励んで参りました。吉岡前学長は、3Y〈夢、喜び、やりがい〉をモットーに学生や教職員を育成・指導してこられました。この3Yという言葉に感銘を受け、私のモットーとさせていただくことに、吉岡前学長のお許しをいただきました。

私は、3Yを日々念頭に置きながら学業や業務に励むことにより、よい成果が生まれると思っています。総務・経営面から、学生や教職員の皆さんがこの3Yにより大きな成果が生まれるよう支援して参りたいと思います。それが私の使命だと考えております。

昨年度より第2期中期目標・中期計画（平成25年

度～30年度）が始まり、いよいよ2年目の年度に入りました。昨年度に設置された中期目標の中で最も重要な「県費奨学生配置センター」「奈良医大医師派遣センター」を始め十数個の組織を具体的に稼働させなければなりません。そのためには、強い意志を持ち全教職員が一丸となって目標に邁進する必要があります。また、教育・研究部門（大学機能）が現農業総合センターの跡地へ移転し、平成33年度中に新キャンパスがオープンする予定となっています。一方、現キャンパスにおいては、附属病院（病院機能）を中心としたまちづくりが進められることになっています。そのための将来構想策定作業が本格的に始まったばかりで、これからが正しく正念場です。

この大切な時期に、こうした職に就かせていただき大変身の引き締まる思いであります。

細井理事長・学長は、第2期中期目標の達成と“20年後（正確には17年後）のトップ10”を実現するため、ガバナンスの強化を進めようとしておられます。微力ではございますが、その一翼を担い最善を尽くして参りたいと思っております。今後とも、より一層のご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 就任挨拶

### 医学部長就任挨拶

医学部長 車谷 典男

皆様の温かいご信任をいただき、この4月1日から向こう2年間、医学部長の大役を担当させていただくことになりました。正式には副学長(医学部長)であり、法人組織上は理事(教育・研究担当)であります。

私は1970年4月に本学に入学して以来、留学中の一時期を除く過去40年余り、キャンパスの拡張と教育・研究棟や附属病院の新・改築を見続けてきました。しかし、今般の第2期中期計画にある教育・研究部門の神宮キャンパス移転計画は、これまでとは質量ともに開学以来の異次元とも呼べる一大事業であり、私たちは極めて重大な本学の結節点に佇み、本学の将来を決定づける重責を担おうとしています。時まさしく、急速なグローバル化の進展と本格的な人口減少社会の到来を背景に、大学のあり方やあり様をさらに改革することが迫られている時期でもあります。その中であって、高い志を持った「より存在感のある医科大学に」本学を高めていくこ



とに、全ての教職員の皆様とともに尽力させていただきたいと考えています。

本学の定款第1条に、公立大学法人奈良県立医科大学は「医学、看護学及びこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学及び看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを目的」として設置されていることが謳われています。素晴らしい建学の精神でもあります。昨年度から始まった第2期中期計画はこの目的に沿ったものであり、その着実な実行こそが建学の精神と医科大学としての本学の存在感を高め、大きな基本目標である「18年後のトップ10」を実現させる推進力になると信じています。

本学の発展のために唯一無二の判断基準に、お互いが少しずつ我慢しあって共通の最大幸福を求めるを是とし、公平無私で、医学部長の職責を全うしたいと考えています。

大学本部棟2階に医学部長室が新しく設置されました。地域健康医学講座教授との兼任であり常時在室ではありませんが、気軽にお立ち寄りください。誤った判断や発言や行動があれば苦言を呈していただけますよう皆様をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 附属病院長再任挨拶

病院長 古家 仁

このたび奈良県立医科大学附属病院病院長として再任されました。2年前に働きやすい環境づくりの構築、チーム医療の確立、医療安全の浸透、感染防御体制の確立、医療の質の向上などを所信として病院長に就任しました。これらの内容は一朝一夕で確立出来るものではなく徐々にしか進みませんが、何とか向上できるような体制づくりを就任以来進めてきたつもりです。たとえば外来ドクター秘書の設置を始め、看護補助者の導入や他のメディカルスタッフの増員を心がけました。医療安全面では、Safety Netの構築を手がけました。これは世界でもMayo Clinicと本学だけがシステム化できた大学病院です。今後このシステムとRapid Response Teamが稼働すれば、日本で有数の安全な病院づくりが可能です。また、患者さんと医師の間で橋渡しをする役割の医療メディエーション室を設置しました。その他にもいろいろ手がけていますが、まだ満足いく結果にはなっていないと思います。

そういった活動をする中で本院として大きな課題が出



てきました。それは、厚生労働省による特定共同指導の指摘内容に代表される課題です。基本は保険診療に従って診療する、という一言に尽きるのですが、これを現実に全病院で問題なく実施するためにはシステム面、また教育面でも不十分でした。この対応に未だに苦慮しています。それ以外に本院が奈良県民の最後の砦としての病院である、という本院の在り方を周知するためには医療従事者の意識だけでなくシステムの改変も必要で、この点もまだ満足いく結果は出ていません。

以上のような問題点を解決し本院をさらに安全で質の高い病院にするために今後いろいろな取り組みが必要です。その中には、救急医療をはじめとする病院機能の充実や、地域の医療機関との連携を強化する必要があります。患者数を伸ばし、質を向上させるため、外来機能の専門化も必要だと思っています。診療体制の強化とマンパワー確保が重要で。そのために病院教授などの制度を推進し優秀な人材の確保に努めることも必要だと思っています。そしてもっとも重大で成し遂げなければならないことは臨床研究棟の建て替えです。本学の医師が全員でその達成に向かって前進する必要があると思います。

本院にはまだまだ多くの問題や課題があります。病院長として少しでも改善すべく全力で望みたいと考えています。

## 部局長就任挨拶

### 附属図書館長就任挨拶

附属図書館長 木村 弘

このたび本学図書館長を引き続き担当させて頂くことになりました第二内科学の木村です。ご挨拶をかねて、本学図書館の現状報告と当面の課題について述べさせていただきます。



情報ネットワークの進歩もすみ、本学においても、多くの教員・職員・学生の方々がPCやモバイルを通じて手軽に最新科学情報の入手を行うようになりました。この時代に応えられるよう、本学図書館でも電子ジャーナルの導入を積極的におこない、従来の書籍を中心とした図書館から新しい機能を持つ図書館に発展してきました。また、図書館内ではWi-Fi機器に接続して情報検索できるよう無線LANが設置されていますが、利用者の要望に応じてPCやカラープリンター等の増設、更新を行うとともに、利便性の改善に少しずつ取り組んで参りました。その一方で、現実的には建物の老朽化にともないハード面での見劣りは否めません。設備の改修や必要備品の更新にも引き続き進めたいと思います。

情報発信源としての機関リポジトリについても確実に発展してきました。学術成果や知的財産を蓄積し学内のみならず広く社会に発信することは、図書館のみならず、本学にとって大切な事項です。円安のなかで学術雑誌、電子ジャーナルの高騰という難題を抱えているものの、情報環境の充実の必要性に関して皆さまからご理解いただき、教育支援、研究支援、診療支援、さらに地域貢献に寄与できる図書館を目指したいと思っております。

最後になりますが、ご存知のように近い将来には本学の一部は新キャンパスに移転します。この新キャンパス構想のなかで、いかに新キャンパスと現キャンパスとの図書館機能・情報発信機能を有機的に構築し発展させるかは本図書館における最も大きな課題ともいえます。ハード、ソフトの両面から新しい図書館システムの構築に取り組んで行く必要があります。

教員・職員・学生の皆さまの引き続きのご協力を切にお願い申し上げます。

### 研究部長就任挨拶

研究部長 嶋 緑倫

この度研究部長の大役を拝命いたしました。本学の中期計画に連動して大学研究部長の最も重要な任務は大学の研究の活性化と研究環境づくりだと思います。そのために以下の具体的なタスクが挙げられます。



#### ■大学院の充足率アップ

なんといいても若い研究者のリクルートは大学の研究の活性化にとって必須です。残念ながら、本学の大学院の充足率は60%と低い状況が続いています。

新たな対策が必要です。たとえば、研究の面白さを伝え、学内のすぐれた成果を正当に評価するシステムも必要だと思います。

#### ■科研等競争的獲得研究費の推進

奈良医大の科研の採択件数と採択額は年々増加しています。でも他大学と比較するとまだまだ十分とはいえません。平成25年度の採択件数は国公立医科系単科大学9大学中、6位、採択金額は7位であります。さらなる躍進が望まれます。そのために全学が協力して情報を共有しにより科研費獲得に向けてノウハウを共有することが有効だと考えています。

#### ■産学官共同・先端医学研究の推進

これから研究を発展するためには産学官共同プロジェクトの推進が極めて必須だと思います。そのためにはもっと情報を共有して共同プロジェクトを議論する機会が必要だと思います。さらに、奈良医大発のオンリーワンの先駆的な研究も必要です。そのためには教室をこえた大きな研究プロジェクトの推進が期待されます。

トップテンをめざして奈良医大の研究をパワーアップするためにも少しでもお役に立てるよう努力する所存ですので皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

### 看護学科長就任挨拶

看護学科長 軸丸 清子

平成26年4月1日より前看護学科長飯田順三先生の後任として、学科長を拝命いたしました。私は、平成23年4月に本学看護学科精神看護学教授として就任し、翌年4月から2年間教育部長を務めて参りました。



看護学科は今年で開学10周年を迎えますが、直近6年間は飯田学科長が牽引して下さり、平成24年には大学院看護学研究科が認可され、大学院を持つ84校の国公立大学（日本看護系大学協議会、2013.4.1発表）に肩を並べることができました。

振り返ってみますと、この10年間は飯田学科長をリーダーとして教職員が一致団結して看護学科の基盤づくりに励んだ時期であったといえます。今後10年から20年は、この先30年、50年を見据えて、あるべき姿を見定め方向づけていく重要な時期であると考えています。

そのような重要な時期の一部を担わせていただくに当たり、昨年より始まっています第2期中期計画実行に向けて、1)今年4月に開設しました看護実践・キャリア支援センターの整備・運営、2)教職員のFD・SDの促進と学部・大学院教育のさらなる充実、3)高度実践看護師を見据えた大学院専門看護師養成課程立ち上げの検討、4)超高齢社会に向けて、在宅医療、チーム医療に応えられる人材育成のための医学と看護学の融合教育（カリキュラム）の検討と準備、5)卒業生の本学附属病院および奈良県下への就職率の促進に取り組んでいきたいと考えています。

教職員の皆様とともに、高い志をもって本学および看護学科のより一層の発展に尽力させていただきます。

### 一般教育部長再任挨拶

一般教育部長 平井 國友

4月より一般教育部長に再任致しました。大学の一般教育の目的の一つは



効果的思考能力を養うことであり、この能力は論理的、関係的、想像的思考能力の総合であるとされ、一般教育には自然科学、社会科学、人文科学の分野が必要となります。2年前の挨拶では、危険およびそれに伴う損害を想像する思考能力が重要であり、学生が想像的思考能力を持ち想定外という言い訳をしない人となるよう、一般教育が少しでも役に立てればと述べました。この思いはより強くなっており、想像的思考能力の重要性を今後も強調してゆきたいと思っております。

さて、中期目標にリベラルアーツ教育の実践が掲げられており、一般教育検討委員会でカリキュラム編成案を作成することになります。新教授を含め、一般教育の教員人事には懸案が残っています。これらの課題について、十分な議論を尽くして、全体的な合意が形成できるよう努力するつもりです。皆様方のご指導、ご支援をお願い致します。

## 部局長就任挨拶

### 基礎教育部長就任挨拶

基礎教育部長 吉栖 正典

この度4月1日付で基礎教育部長を拝命いたしました。基礎医学教育協議会は、新設された免疫学講座を加えた基礎医学14講座と先端医学研究機構の生命システム医科学2分野の教授、および同施設部の主任教員で構成されています。近年、複数の入試制度と医学科学生定員増をうけて多様な価値観、考え方をを持った学生が入学してきています。彼ら彼女らを将来、立派な医師や医学研究者へと導いていくため、基礎医学系教員の先生方と緊密な連携を取って教育を進めていきたいと考えています。また2013年度の医学科学生生活白書をもとに、学生の基礎医学授業への満足度は必ずしも高いとは言えず、学生と教員の忌憚のない意見交換を経て満足度の高いものに改善していく必要性を感じています。学生のアメニティーはここ数年でずいぶん改善されましたが、学生の意見に耳を傾けて定員増にも対応した対策を考えていきたいと思っています。初めての経験であり、与えられた職責をどれほど果たしていけるかはなほ不安ではありますが、前任の車谷部長を見習い調整役に徹して努力していく所存です。皆様方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



### 臨床教育部長就任挨拶

臨床教育部長 上野 聡

この度4月1日付で臨床教育部長に就任いたしました。臨床教育の目標は、日常診療から高度医療、基礎研究、産業また行政の分野など広く社会に貢献する人材の育成にあると考えています。臨床教育の目的は豊かな医学知識の獲得にとどまらず、職業人としての意識の涵養が特に大切です。他学部に比して長い学生生活と、その後の研修期間から同世代がすでに社会の一翼を担っているときも、私たちに幾分か甘えが見え隠れするようにも思います。多様化、国際化、多層別化する社会の中で、医師の増加、人口の減少、高齢化、医療費の切迫、厳しさを要する社会の要求があります。断言できることは競争の激化によって二極化がさらに鮮明になることです。本学の臨床教育を通して社会の最前線で、生き生きと目覚ましい働きができる一廉（ひとかど）の医療人の育成をめざします。身近な診療にも大きく貢献しながら、深い洞察力、広い視野を持つ「地域に根ざし、世界にはばたく」医師育成のための教育に努力したいと思っています。皆様方のご指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



### 看護教育部長就任挨拶

看護教育部長 石澤 美保子

この度4月1日付で看護教育部長を拝命いたしました。看護教育部長の役割は、将来看護職種に従事するべく学生に対し、できる限りの教育環境を整え、人として豊かな情操を育ていけるように日々起きる事象に対し細やかに調整することです。さらには、学生を育てる教員自身も自分の教育力に自信をもち、大学教員として研究に邁進し「奈良医大看護学科教員」であることに高い誇りをもてるような環境づくりを提案していくことだと考えております。本学は平成25年度～30年度の中長期計画が始まっており、大学の将来を方向づける非常に重要な時期を迎えると同時に、本年度は看護学科が開設10周年を迎える節目にあたります。医療全体を見渡してみても、厚労省が最重要課題の一つとして取り上げている2025年問題におきましても、看護職の役割の大きさがどれほどであるかは、皆様も既にご周知のことと存じます。



そのような社会的背景と本学が進むべく未来をしっかりと考え、軸丸看護学科長とともに、看護教育部長として微力ではございますが、尽くして参りたいと存じますので、皆様方のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 教授就任挨拶

エビデンスに基づいた  
安全な輸血医療へ  
～輸血部教授就任のご挨拶～

輸血部  
教授 松本 雅則



この度、平成26年4月1日付けで輸血部教授に就任することになりました。藤村吉博前教授のもとで15年間当院の輸血部で勤務してきましたので、それをさらに発展させることを目指します。輸血部の大きな使命は、適正で安全な輸血医療を行うことですが、そのため少数の輸血部技師のみでの24時間当直という全国でも珍しい体制をとっています。また、輸血医療はかなりエビデンスに従って行われるようになりましたが、まだまだ経験による部分が多い状況です。このような状況を改善するには、自ら新たなエビデンスを作る努力が必要だと思っています。我々は、この15年間のADAMTS13を中心とした研究を通じて、血栓性血小板減少性紫斑病における血漿交換の有用性、血小板輸血禁忌などの輸血医療に直結したエビデンスを得ることができました。今後も、中央部門である利点を生かして様々な教室との共同研究を行い、臨床に直結した研究を行っていきたく考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

# 法人の新しい組織

## 1 事務組織のガバナンス強化

事務組織の長としての事務局長を置き、総務・経営担当理事をあてる。  
大学における事務を扱う組織において、総務・経営担当理事の指揮命令をより明確にし、各所属が横断的な連携を図りながら事務執行を行うようにするため

## 2 基本構想策定局の設置（理事長直轄）

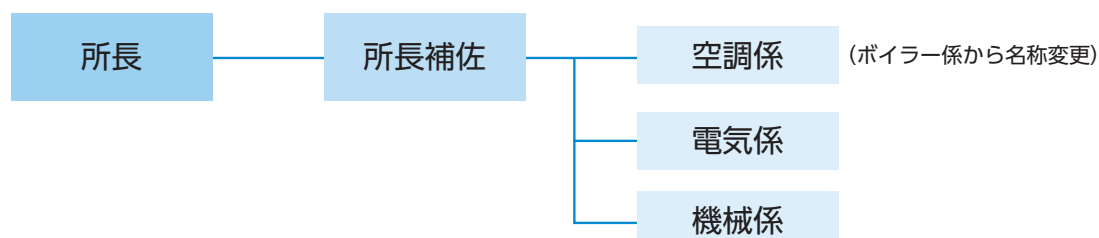
教育・研究機能の移転及び病院再整備について、本学の将来像や長期的な運営方針を踏まえ検討する必要があるため、策定組織を設置

## 3 その他の組織の新設

- ① **県費奨学生配置センター・県立医大医師派遣センター**  
医師派遣要請に対応した医師のあっせんを行うとともに、県費奨学生の適切な配置やキャリア形成支援を行うため設置
- ② **大和漢方医学薬学センター（3月1日～新設済）**  
漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行うため設置
- ③ **県民健康増進支援センター**  
県や市町村が実施する健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供するため設置
- ④ **看護実践・キャリア支援センター**  
看護師、看護学科学生の教育、研修、研究、キャリア形成支援等を行うため設置

## 4 組織の再編

- ① **エネルギーセンターの独立**  
今後の施設整備、移転等に備えるため、エネルギーセンター内にある設備管理・整備を行っている財産管理課の3つの係（ボイラー係、電気係、機械係）をエネルギーセンターとして整理



- ② 「医療メディエーション室」の名称を、患者にとってわかりやすい名称とするため、「患者・家族支援室」に変更

## 役員・教育研究審議会・経営審議会名簿

役員名簿、教育研究審議会及び経営審議会名簿は次のとおりです。(敬称略)

### 【役員名簿】

職名	氏名	備考
理事長	細井 裕司	学長
副理事長	林 洋	
理事	山下 昌宏	総務・経営担当、事務局長
	車谷 典男	教育・研究担当、医学部長
	古家 仁	医療担当、附属病院長
学外委員	岸 秀隆	公認会計士
	山田 陽彦	弁護士

### 【教育研究審議会委員名簿】

職名	氏名	備考
学長	細井 裕司	理事長
副理事長	林 洋	
副学長	車谷 典男	教育・研究担当、医学部長
	古家 仁	医療担当、附属病院長
教育研究上の重要な組織の長	木村 弘	附属図書館長
	嶋 緑倫	研究部長
	軸丸 清子	看護学科長
	平井 國友	一般教育部長
	吉栖 正典	基礎教育部長
	上野 聡	臨床教育部長
	石澤美保子	看護教育部長
学長が指名する理事	山下 昌宏	総務・経営担当、事務局長
学長指名委員	藤本 眞一	教育開発センター教授
学外委員	池田 康夫	早稲田大学特命教授

### 【経営審議会委員名簿】

職名	氏名	備考
理事長	細井 裕司	学長
副理事長	林 洋	
理事	山下 昌宏	総務・経営担当、事務局長
	車谷 典男	教育・研究担当、医学部長
	古家 仁	医療担当、附属病院長
学外委員	相田 俊夫	倉敷中央病院 副理事長
	川副 浩平	関西医科大学 特命教授、 関西医科大学附属滝井病院 心臓血管病センター長、 聖路加国際病院 顧問
	澤田 敏	関西医科大学 常務理事
	白井 克彦	早稲田大学 学事顧問 (同大学前総長)、 放送大学学園 理事長
	田中 郁子	株式会社 柿の葉すし本舗 たなか 代表取締役社長
	松村 理司	医療法人社団洛和会 洛和会ヘルスケアシステム 総長

## 知的障害のある男女5名が仲間に加わりました～3月24日(月)採用式を実施～

### 総務課人事係

本学では、末広友衣さん、井上光明さん、石原理江子さん、杉岡大基さん、福田菜々美さんの5名を3月24日付けで採用し、同日採用式を行いました。

採用式では皆、緊張している様子でしたが、しっかりと辞令を受け取り、仕事をしていくことに対する意欲をみなぎらせていました。

主な業務内容としては、なかよし保育園での清掃やおやつ・給食の用意などや、附属病院での車椅子の清掃、薬剤部での薬品の説明書折りや運搬トレイの清掃、附属病院・大学から出る大量の廃棄書類のシュレッダー処理などの補助作業に従事しています。

これまで、県立高等養護学校、県立高等技術専門学校より職場体験実習生を受け入れるのみでしたが、今後は、同じ職員として、奈良障害者職業センターから派遣されるJOB コーチや各種障害者就業支援団体の協力を受けながら、円滑な業務

遂行を進めていきたいと考えています。職員の皆様の一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



前列：左より 末広友衣さん、石原理江子さん、福田菜々美さん  
後列：左より 井上光明さん、杉岡大基さん

## 大和漢方医学薬学センター開設及び「キックオフセミナー」の実施

この度、大和漢方医学薬学センター（センター長：学長兼任）を新たに設置し、3月1日付けで職員が配置されました。

このセンターは、漢方医学薬学に関する教育・研究・診療活動の充実並びに県民の健康増進及び地域の活性化を推進することを目的としており、副センター長に渡辺賢治特任教授及び大西峰夫前総務・経営担当理事、スタッフとして三谷和男特任教授が就任し、これらの体制でスタートしました。

3月7日（金）にはセンター開設を記念した「キックオフセミナー」を厳樞会館大ホールで関係者約100人の参加により開催しました。

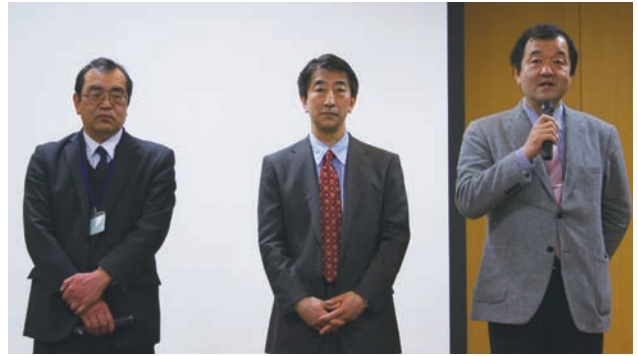
セミナーでは、吉岡前学長から「未来志向の漢方とセンター設立の



開会挨拶を行う吉岡前学長

背景」と題した開会挨拶があり「奈良県では“漢方のメッカ推進プロジェクト”を立ち上げて事業をスタートしている。この中で奈良医大として漢方医学薬学に関する研究、臨床、さらには漢方に精通した医療人の育成などを進めていきたい」と抱負を述べられ、来賓として挨拶いただいた橋本安弘奈良県知事公室審議官（漢方のメッカ推進プロジェクト担当）からは「大和漢方医学薬学センターが本格稼働することによって、プロジェクトのステージにより一層の弾みがつくものと期待している」とのお話がありました。

さらに慶應義塾大学教授でもある渡辺副センター長からは「なぜ今漢方か？なぜ大和か？」と題した記念講演で「奈良と薬の歴史は深く、今後は奈良の観光や林業などの魅力



左から大西前副センター長、渡辺副センター長、三谷特任教授

と漢方をどう結びつけるかが奈良と漢方の未来の鍵になる。」との話がありました。

セミナー終了後は医師、薬剤師、県及び薬業関係者など当日の参加者による交流会があり、名刺交換や活発な意見交換が行われました。

また、3月2日（日）にはNPO法人健康医療開発機構主催の第7回シンポジウム「未来志向の漢方～ポジティブな多世代共生社会を目指して～」が東京（学士会館）で開催され、その中で渡辺副センター長が基調講演、吉岡前学長がパネルディスカッションのパネラーとして漢方に関する本県及び本学の取り組み等について「未来志向の漢方～奈良県の取り組み～」と題して、広く本学大和漢方医学薬学センターについても周知を行いました。



東京でのシンポジウムでのパネルディスカッション

## 寄附講座「人工関節・骨軟骨再生医学講座」の設置期間を延長

平成23年4月1日から3年間の設置期間で「人工関節・骨軟骨再生医学講座」を寄附講座として開設していますが、このたび京セラメディカル株式会社からのご寄附により設置期間を平成26年4月1日から平成29年3月31日まで3年間延長しました。

### ■ 延長後の寄附講座「人工関節・骨軟骨再生医学講座」の概要

- ・研究領域 人工関節全般及び骨軟骨再生医療
- ・寄附講座教員 教授 川手 健次  
講師 朴木 寛弥  
※朴木整形外科学講師は寄附講座講師を兼務
- ・講座開設期間 平成26年4月1日～  
平成29年3月31日（3年間）  
（当初は平成23年4月1日～  
平成26年3月31日の3年で設置）

- ・寄附者 京セラメディカル株式会社  
（大阪市淀川区宮原3丁目3-31 上村ニッセイビル10F）
- ・寄附総額 7千5百万円  
（平成26年度～28年度 3年間）

### ■ 同講座設置期間延長の経緯

寄附講座「人工関節・骨軟骨再生医学講座」は日本メディカルマテリアル株式会社（現京セラメディカル株式会社）からの寄附により平成23年度から平成25年度の3年間で設置。

今回は、日本メディカルマテリアル株式会社から社名を変更した京セラメディカル株式会社から、同講座の3か年における研究実績を高く評価いただき、更なる研究の進展が見込まれることから、同講座の設置期間を更新し、3年延長するための寄附を申し出いただいたものです。

# 私たちはこんな1年を送ります ～平成26年度学事計画～

平成26年4月から27年3月までの主な行事やカリキュラムを紹介します。

※諸事情により変更される場合がありますので、ご了承ください。

医学科 1学年		医学科 2学年		医学科 3学年	
4/9 (水)	入学式	4/11 (金)	専門課程開講式	2/3 (月)	基礎医学Ⅱ 授業開始
4/10 (木)～11 (金)	新入生オリエンテーション	4/14 (月)	授業開始	4/14 (月)～7/14 (月)	コンソーシアム実習
4/14 (月)	授業開始	5/15 (木)	開学記念日	4/14 (月)～7/14 (月)	地域基盤型学習
未定	AED+BLS 講習 (予定)	7/21 (月)～9/5 (金)	救急自動車同乗体験実習 (1～2日間)	5/15 (木)	開学記念日
5/15 (木)	開学記念日	7/21 (月)～9/7 (日)	夏季休業	7/21 (月)～9/7 (日)	夏季休業
未定	施設見学 (学内・院内)	9/18 (木)	解剖慰霊祭	9/18 (木)	解剖慰霊祭
7/21 (月)～9/7 (日)	夏季休業	9/24 (水)～10/7 (火)	前期定期試験 (一般)	10/24 (金)～26 (日)	大学祭
9/16 (水)～30 (水)	前期定期試験	10/24 (金)～26 (日)	大学祭	10/27 (月)～12/19 (金)	後期定期試験 (基礎)
9/18 (木)	解剖慰霊祭	12/12 (金)～19 (金)	基礎医学Ⅰ TBL	12/22 (月)～1/11 (日)	冬季休業
10/24 (金)～26 (日)	大学祭	12/22 (月)～1/11 (日)	冬季休業	1/13 (水)	基礎・臨床統合カリキュラム授業開始
12/22 (月)～1/11 (日)	冬季休業	1/13 (水)～2/6 (金)	後期定期試験 (基礎)	1/13 (水)～2/27 (金)	第1ブロック (授業)
2/4 (水)～2/17 (水)	後期定期試験	2/6 (金)	後期定期試験 (一般)	3/2 (月)～6 (金)	第1ブロック (試験)
2/23 (月)～3/13 (金)	医学特別実習 (5日間)	2/9 (月)	基礎医学Ⅱ 授業開始	3/9 (月)	第2ブロック開始
2/23 (月)～3/13 (金)	社会体験実習 (3日間)	3/30 (月)～4/12 (日)	春季休業	3/23 (月)～4/12 (日)	春季休業
3/23 (月)～4/12 (日)	春季休業				

医学科 4学年		医学科 5学年		医学科 6学年	
1/6 (月)～2/19 (水)	第1ブロック (授業)	2/24 (月)～5/23 (金)	BSL 第1ブロック	3/3 (月)～28 (金)	学内4週間選択実習 第1ブロック
2/20 (木)～28 (金)	第1ブロック (試験)	5/15 (木)	開学記念日	4/7 (月)～5/2 (金)	学内4週間選択実習 第2ブロック
3/3 (月)～5/22 (木)	第2ブロック (授業)	5/26 (月)～9/12 (金)	BSL 第2ブロック	4/7 (月)～6/27 (金)	クリニカルクラークシップ (4週間)
5/15 (木)	開学記念日	7/21 (月)～8/31 (日)	夏季休業	5/5 (月)～5/30 (金)	学内4週間選択実習 第3ブロック
5/23 (金)～29 (木)	第2ブロック (試験)	9/15 (月)～11/21 (金)	BSL 第4ブロック	5/6 (水)～7/4 (金)	地域医療体験実習 (4日間)
5/30 (金)～9/26 (金)	第3ブロック (授業)	9/18 (木)	解剖慰霊祭	5/15 (木)	開学記念日
7/21 (月)～8/31 (日)	夏季休業	10/24 (金)～26 (日)	大学祭	6/2 (月)～6/27 (金)	学内4週間選択実習 第4ブロック
9/4 (木)、9/5 (金)	CBT	11/24 (月)～2/13 (金)	BSL 第4ブロック	7/10 (木)	PBL 症例報告会
9/9 (水)～26 (金)	基本的臨床手技	12/22 (月)～1/4 (日)	冬季休業	8/25 (月)～8/29 (金)	卒業試験 (第1ブロック)
9/16 (水)～18 (木)	実践的医療倫理	2/16 (月)～27 (金)	臨床医学 TBL	9/18 (木)	解剖慰霊祭
9/18 (木)	解剖慰霊祭	3/2 (月)～27 (金)	学内4週間選択実習 第1ブロック	9/22 (月)～9/26 (金)	卒業試験 (第2ブロック)
9/28 (日)	OSCE	3/30 (月)～4/5 (日)	春季休業	10/24 (金)～26 (日)	大学祭
9/29 (月)～10/9 (木)	第3ブロック (試験)			10/27 (月)～10/31 (金)	卒業試験 (第3ブロック)
10/10 (金)～17 (金)	社会フィールド系実習 (法医学)			未定	医師国家試験
10/20 (月)～11/20 (木)	研究室配属			3/17 (水)	卒業式 (予定)
11/21 (金)～28 (金)	社会フィールド系実習 (衛生学・公衆衛生学Ⅱ)				
12/1 (月)～5 (金)	BSL オリエンテーション				
12/8 (月)～2/27 (金)	BSL 第1ブロック				
12/22 (月)	社会フィールド系実習報告				
3/2 (月)	BSL 第2ブロック開始				
3/30 (月)～4/5 (日)	春季休業				



看護学科 1学年		看護学科 2～4学年		看護学科 編入3～4学年	
4/9 (水)	入学式	4/10 (木)	前期授業開始	4/9 (水)	入学式
4/10 (木)	新入生ガイダンス	5/15 (木)	開学記念日	4/10 (木)	新入生ガイダンス
4/10 (木)～11 (金)	新入生課外研修	7/25 (金)	前期終講	4/11 (金)	前期授業開始
4/14 (月)	前期授業開始	7/28 (月)～8/1 (金)	前期試験	5/15 (木)	開学記念日
5/15 (木)	開学記念日	9/18 (木)	解剖慰霊祭	7/25 (金)	前期終講
7/25 (金)	前期終講	9/26 (金)	後期授業開始	7/28 (月)～8/1 (金)	前期試験
7/28 (月)～8/1 (金)	前期試験	10/24 (金)～26 (日)	大学祭	9/18 (木)	解剖慰霊祭
9/18 (木)	解剖慰霊祭	12/24 (水)～1/4 (日)	冬季休業	9/26 (金)	後期授業開始
9/26 (金)	後期授業開始	2/2 (月)	後期終講	10/24 (金)～26 (日)	大学祭
10/24 (金)～26 (日)	大学祭	2/3 (水)～10 (水)	後期試験	12/24 (水)～1/4 (日)	冬季休業
12/24 (水)～1/4 (日)	冬季休業	未定	保健師国家試験	2/2 (月)	後期終講
2/2 (月)	後期終講	未定	看護師国家試験	2/3 (水)～10 (水)	後期試験
2/3 (水)～10 (水)	後期試験	3/17 (水)	卒業式 (予定)	3/17 (水)	卒業式 (予定)
3/23 (月)～4/5 (日)	春季休業	3/23 (月)～4/5 (日)	春季休業	3/23 (月)～4/5 (日)	春季休業

# 平成 26 年度入学試験を実施しました

昨年度から入学試験の内容を大きく変更した医学部医学科は推薦選抜、一般選抜（前期日程・後期日程）において合計1,835名の志願者があり、113名が入学することとなりました。また、第2年次編入学試験では研究医枠、県費奨学生枠を併せて17名の志願者があり、研究医養成コースとして2名、

県費奨学生枠として1名、一般枠として3名が入学することとなりました。

一方看護学科では、推薦選抜、社会人特別選抜、一般選抜（前期日程・後期日程）において合計235名の志願者があり85名が入学、また第3年次に4名が編入学することとなりました。

## 平成 26 年度入試結果

※県費奨学生枠1名に加え一般枠として3名が合格しました。

区分		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦 (緊急医師確保)	13	139	129	13	0	13	10.7	9.8
	推薦 (地域枠)	25	225	217	25	0	25	9.0	7.8
	前期	22	263	239	22	0	22	12.0	11.6
	後期	53	1208	353	57	4	53	21.2	22.6
	編入学 (研究医枠)	2	3	3	2	0	2	1.5	1.5
	編入学 (県費奨学生枠) ※	1	14	14	4	3	4	3.5	2.5
	小計	116	1,852	955	123	7	119	15.1	16.0
看護学科	推薦 (地域枠)	30	67	67	30	0	30	2.2	2.2
	社会人	5	20	18	5	0	5	4.0	2.8
	前期	40	95	92	44	4	40	2.2	3.6
	後期 (地域枠)	10	53	28	11	1	10	4.8	7.7
	編入学 (地域枠)	5	6	6	4	0	4	1.5	1.9
小計	90	241	211	94	5	89	2.6	3.5	
医学部	合計	206	2,093	1,166	217	12	208	9.6	10.4

## Student Doctor 制度を開始します

全国医学部長病院長会議での決定を受け、本学医学部医学科においても Student Doctor 制度を試行的に開始します。この制度は、社会や患者さんの医学実習生が行う臨床実習への理解を深めることを目的とし、共用試験 (CBT および OSCE) に合格し、十分な知識・技能・態度を有していると認められる学生に「Student



OSCEの様子 (H26/2/15 実施)

Doctor」の認定証を交付するものです。学生が高いモチベーションを持ち、積極的に診療参加型臨床実習を行うことで、医学教育のさらなる質の向上を目指していきます。



Student Doctor 認定証 (見本)

※CBT … 基礎医学・臨床医学知識の総合的理解力を評価するコンピューターを用いた客観的試験  
OSCE…基本的診療技能・態度を評価する客観的能力試験

## 平成 25 年度 学位授与の状況

次の49名に博士 (医学) の学位が授与されました。(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

### 本審査日 平成 25 年 5 月 14 日 (火) 6 名

- (甲) 岡田 光司 精神医学行動神経科学
- 安田 里司 消化器機能制御・移植医学
- (乙) 安井 武史 第一解剖学
- 榊原 崇文 小児科学
- 池田 朋博 泌尿器科学
- 渡邊 恵介 麻酔科学

### 本審査日 平成 25 年 7 月 9 日 (火) 6 名

- (甲) 矢田 弘史 発達・成育医学
- 土井 政明 発達・成育医学
- (乙) 太田 豊作 精神医学
- 宮坂 俊輝 放射線医学
- 林 浩伸 麻酔科学
- 福島 英賢 救急医学

### 本審査日 平成 25 年 11 月 12 日 (火) 10 名

- (甲) 北村 聡一郎 精神医学行動神経科学
- 森戸 啓統 皮膚病態医学
- 栗原 都 分子腫瘍病理学
- 井上 剛志 泌尿器機能制御医学
- 清水 隆昌 運動器再建医学
- 稲垣 有佐 運動器再建医学
- (乙) 吉本 清巳 生化学
- 乾 登史孝 脳神経外科学
- 三宅 仁 脳神経外科学
- 堀 勇二 輸血部

### 本審査日 平成 26 年 3 月 6 日 (木) 27 名

- (甲) 根津 智子 地域健康医学
- 松田 康裕 精神医学行動神経科学
- 川島 涉 法医学
- 相原 洋祐 消化器病態・内分泌機能制御医学
- 高谷 広章 消化器病態・内分泌機能制御医学
- 松井 勝 循環器・腎臓病態制御医学
- 松本 貴樹 循環器・腎臓病態制御医学
- 川原 勲 分子腫瘍病理学
- 竹下 大輔 生体機能制御機構学
- 服部 宏志 生体機能制御機構学
- 光山 晋一 生体機能制御機構学
- 松末 友美子 口腔・顎顔面機能制御医学
- 森本 千裕 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
- 上村 裕和 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
- (乙) 笠原 一規 細菌学
- 東 伸岳 細菌学
- 松本 伸哉 健康政策医学
- 中村 篤宏 第二内科学
- 竹内 洋司 第三内科学
- 片山 健 整形外科
- 青木 久美子 口腔外科学
- 児玉 亮 眼科学
- 鳥塚 通弘 精神医学
- 岡本 英之 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
- 小泉 敏三 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
- 小林 武彦 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
- 浦谷 悠加 耳鼻咽喉・頭頸部外科学



## 国際ソロプチミストの奨学金受給者に決定

国際ソロプチミストは専門職の女性で組織された全世界に会員をもつ組織であり、国際理解と世界友好に貢献することを目的として活動をしています。活動の一環として、学業・人材ともに優秀で、社会に貢献しうる人材であると認める女性の大学院生又は大学生に対して奨学金の給付を行っています。

この度、本学大学院医学研究科博士課程の吉田瑠子さんが、大学院での研究（妊娠中におこる病気の原因の解明）と本学附属病院での業務（難治性の病気の患者の解析）について、



同団体から高い評価を受け、奨学金を受給されることになりました。おめでとうございます。

(左から)  
松本教授（輸血部）、  
受賞された吉田瑠子さん、  
藤村前教授（輸血部）

### ～今後の抱負～

大学院博士課程 吉田 瑠子

このたびは「ソロプチミスト女子大学院生奨学金給付」の受給者に選出していただき、大変嬉しく光栄に思っております。私は奈良女子大学大学院を修了し、平成24年に本学の医学研究科に入学いたしました。現在、血液・血流機能再建医学講座で、妊娠中に発症する血栓性微小血管障害症に関する研究を行っております。日々、藤村前教授と松本教授、また研究室の諸先生方にご指導いただき、実験技術はもちろんのこと研究に対する姿勢や物事の考え方に至るまで、本当に多くのことを勉強させていただいております。この場をお借りして、御礼申し上げます。

このような素晴らしい賞をいただきましたことに感謝し、今後はよりいっそう日々の研究活動に勤しんでいきたいと思っております。特に妊娠という女性にとって非常に重要な事柄を研究テーマとしておりますので、本学での研究活動を通して女性が安心して妊娠・出産できる環境の構築に貢献できるよう努力していきます。

## 医学研究学生フォーラム 奈良医大と三重大にて開催

「医学研究学生フォーラム」は、カリキュラム外活動として医学研究を行っている学生が集まるプライベートな交流会です。第一回フォーラム（昨年3月）は、三重大医学部薬理学教室、神戸大医学部血管生物学分野、京都大医学部内分泌代謝内科、奈良医大循環器システム医科学研究室で活動する医学科学生が参加して、奈良医大厳樞会館で開催されました。学生の研究発表と討論に加え、学業・クラブとの両立、所属大学を越えた活動、将来の進路など、色々な面から意見を交換し、懇親を深めました。

引き続き昨年12月に、第二回フォーラムが三重大薬理学教室（田中利男教授）のご支援により開催され、奈良医大から7名の学生が参加しました。第一回参加の四校に加えて、和歌山医大・大阪市大・徳島大・岡山大・岐阜大からも学生が参加し、さらに規模が大きくなりました。奈良医大の薬理学教室から辻優一君（医学科6年）、循環器システム医科学

研究室から稲田賢君（同5年）藤田匡秀君（同2年）が研究発表を行い、他の学生も熱心に質疑応答に参加しました。今回は多数の教員も参加し、和歌山医大や徳島大における学生研究振興の紹介もされるなど、有意義な会になりました。第一回と同様に、研究発表の後に夕食をとりながら皆で語り合い、忙しい学科カリキュラムのかたわら自主研究に励む仲間を作ることができたと思います。

このフォーラムは学生が所属する教室・研究室が持ち回りで支援しており、第三回フォーラムは本年12月に和歌山医大で開催される予定になっています。参加希望の学生は循環器システム医科学まで御連絡ください。



当日の様子

## チェンマイ大学との交流

平成26年2月12日～2月22日までの11日間、タイのチェンマイ大学医学部の学生4名（男性1名、女性3名）が来学しました。学生たちは第三内科学、第二内科学、胸部・心臓血管外科学、小児科学、第一内科学、産婦人科学、消化器・総合外科学、形成外科センター、感染症センターの10教室で研修するとともに、本学の学生とも大いに親睦を深めました。関係教室の先生や職員の方々にご協力いただいたことに深く感謝します。

また、本学からは3月29日～4月6日の日程で、3名の学生（男性1名、女性2名）がチェンマイ大学を訪れ、現地の医療・医学事情等について研修を行いました。

これらは、本学とチェンマイ大学との間で1996年に締結された学術交流協定に基づくもので、今回の受入及び派遣で

15回目となります。

今年もまたチェンマイ大学への交換留学生を募集しますので、チェンマイ大学で学んでみたい学生、興味のある学生の参加を期待します。



チェンマイ大学の学生との交流

## クラブ紹介



### 合気道部

「和合」

部員 ▶ 32人

顧問 ▶ 永渕昭良 (生物学教授)

キャプテン ▶ 宇佐美優介 (医学科4年)

活動日 ▶ 月、水、金 (週3回)

私たち合気道部は、医学科17名、看護科15名、計32名で、クラブ棟2階にある道場にて和気あいあいと活動をしています。武道というと痛いというイメージあるかもしれませんが、まず痛くない受け方(受け身といいます)から教えるので、心配いりません。部員のほぼ全員が初心者で、2/3は女子部員なので、新しいことを始めようという人にはちょうど良いかと思います。先輩が一から丁寧に教えるので、全員が二年生で黒帯をとれます。

年に二回ある他大学との合同稽古、そして年に一回ある西日本医療系学生交流演武会(西医療体)・西日本医科学生総合体育大会(西医体)で、日々の練習の成果を出し合います。昨年度は西医療体団体の部で最優秀演武賞、有段の部で最優秀演武賞と優秀演武賞、段外の部で最優秀演武賞と敢闘賞、西医体では段外の部で最優秀演武賞に入賞することができました。

そして部活以外の先輩後輩との交流があるのが合気道部の特徴で、部活後にご飯会に行ったり、オフ期間のときはバーベキューやスキーに行ったりしています。なかなかイメージがわからないと思うので、興味があれば一度道場に見学に来てください。

社会医学研究会(通称:しゃいけん)では、ボランティア活動・国際交流を主な柱として様々な活動を行っています。主な活動内容は、ホスピス・保育園・デイサービスセンター・地域団体でのボランティア活動、ぬいぐるみ病院、手話の会、AMSA・IFMSAといった国際会議、交換留学などです。各施設でのボランティアでは子どもやそのご家族の方たち、あるいは施設を利用するお年寄りの方たちとのふれあいを体験することができます。ホスピスボランティアでは、実際の緩和ケアの現場を体験し、患者さんやそのご家族の方と交流しています。夏休みには、保育園の子どもたちに病院を身近に感じてもらうためにぬいぐるみを使った模擬診療を行うぬいぐるみ病院に取り組んでいます。

AMSA・IFMSAは世界の医学生が所属する団体で、医療に関わる様々なテーマについて意見を交わしたり、国際交流を深めたりする場であり、そこでの活動にも積極的に参加しています。

しゃいけんでは、ほとんどの部員が他のクラブと掛け持ちをしながら活動しています。部員は日々の学生生活の中で時間を見つけ、自分の興味がある活動に自由に参加しています。医科大学ならではの様々な経験ができるしゃいけん、自分自身の糧になる経験を一緒に積んでいきましょう。



### 社会医学研究会

「しゃいけん!!」

部員 ▶ 約130人

顧問 ▶ 嶋 緑倫 (小児科学教授)

キャプテン ▶ 大西 里奈 (医学科4年)

活動日 ▶ 放課後、休日、夏休みなど

## 図書館だより

### 図書館利用の基礎知識

## 第5回 学外から文献を取り寄せる：「My ないと」のご紹介

論文を読みたくなり探したけどどうやら図書館にはないらしい…ということはよくあります。そんなときは学外からの取り寄せサービスを利用しましょう。こちらのサービスは有料となりますが、研究にかかせない文献なら取り寄せてでもほしいものです。

料金の目安はだいたい1文献500円～1,000円で、内訳はコピー代が1枚だいたい30円～50円×ページ数、送料が100円～200円程度です。これはあくまで目安で、カラーページの有無、速達かどうか、文献のボリューム、依頼先の図書館の価格設定などで料金は変わってきます。無駄な出費をしないためにも、自分が本当に読みたい文献かどうか、PubMedや医中誌でAbstractを読むなど、きちんと下調べをすることが大事です。また、図書館にあるものやオンラインジャーナルで見られるものを申し込まれる方も多いため、申し込む前にそちらもご確認ください。それらの調べ方についてはこの連載の第2回～第4回をご参照下さい。なお、PDFでの取り寄せはできませんので、あくまで文献コピーの取り寄せということをご了承下さい。

学外から文献を取り寄せる際は、図書館のHP右上「My ないと」を利用します。「My ないと」は文献の取り寄せのほかにも、自分の貸出・予約状況も確認できるサービスです。利用申請が必要ですので、図書館2階メインデスクで申請用紙にご記入ください。「My ないと」の利用申請はメール(library@naramed-u.ac.jp)でも受け付けています。(注：メールでの文献複写申込は受け付けていません。)

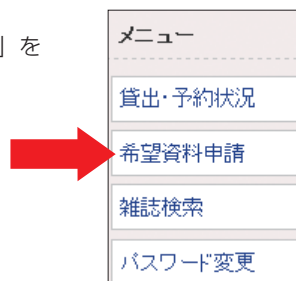
#### 【文献複写依頼方法】

①図書館ホームページ右上「My ないと」へログインします。



※初回ログイン時は別途PW設定が必要です。

②左の「メニュー」より、上から2番目「希望資料申請」をクリック



③左上「新規申請」より、「複写依頼」をクリック  
※論文のコピーでなく、単行本を取り寄せる場合は「貸借依頼」を選択します。ただし、雑誌は借りることができません。



④資料情報や連絡先を入力し（※は必須入力項目）、「申請」をクリック。

(注：「連絡先ほか」は文献到着時のお知らせに必要なので必ず入力してください。)

資料情報	
誌名(※)	<input type="text"/>
巻号(※)	<input type="text"/>
ページ(※)	<input type="text"/>
出版年	<input type="text"/>
著者名	<input type="text"/>
論題(※)	<input type="text"/>
ISSN	<input type="text"/>
参照URL	<input type="text"/>
そのほか連絡事項	
連絡先他	<input type="text"/>
希望納期	<input type="text"/>
依頼コード	ACCT(支払区分) <input type="button" value="▼"/>
連絡事項	<input type="text"/>
<input type="button" value="申請"/> <input type="button" value="申請保留"/>	

#### 〈学内LANでPubMedや医中誌を検索し文献を申し込む場合〉

青いアイコン「奈良医大 Find Full Text」をご利用ください。このアイコンを押し、「関連情報を探す」タブをクリックします。すると「文献複写を申し込む」という項目が出てきますので、「Go」をクリックし、My ないとにログインします。こちらのアイコン経由だと、④で入力しなければならない「誌名」や「巻号」、「ページ」などが自動入力されます。手打ちだと面倒な上間違えることも多いですので、ぜひ簡単、楽チンなこちらの方法もご活用下さい。

あとは文献を待つだけです。だいたい2～3日から1週間ほどで届きます。届きましたら④で入力された連絡先に到着連絡をします。その際代金をお知らせしますので、図書館メインデスクにてお支払いください。文献をお渡します。

いかがでしたか？図書館にお探しの文献がなくても、取り寄せという方法がありますので、諦めないで、まず図書館にご相談下さい。ちなみに「My ないと」の「ないと」とは「奈良医大図書館→奈医図」から来ています。以後お見知りおき下さい！

# 平成 26 年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

平成 26 年度は、第 2 期中期計画の 2 年目であり、様々な取り組みを軌道に乗せることに配慮するとともに、消費税率引き上げや診療報酬改定など、法人を取り巻く経営環境は厳しさを増していることから、経営改善に主眼をおいた予算編成を行いました。

収入は、E 病棟整備の第 1 期が竣工したことから、補助金収入が約 13 億円の減、長期借入金収入が約 25 億円の減、附属病院収入が約 12 億円の増、また支出は、施設整備費が約 38 億円の減、診療経費が約 8 億円の増など支出・収入とも約 25 億円減少し、予算総額が約 376 億円となりました。

26 年度の主な取り組みとして、附属病院の E 病棟の整備を継続するとともに、教育・研究部門等の新キャンパスへの移転推進、臨床医学研究棟の改築推進、キャンパス移転後の附属病院整備構想策定など、法人の将来を見据えた取り組みを引き続き行います。

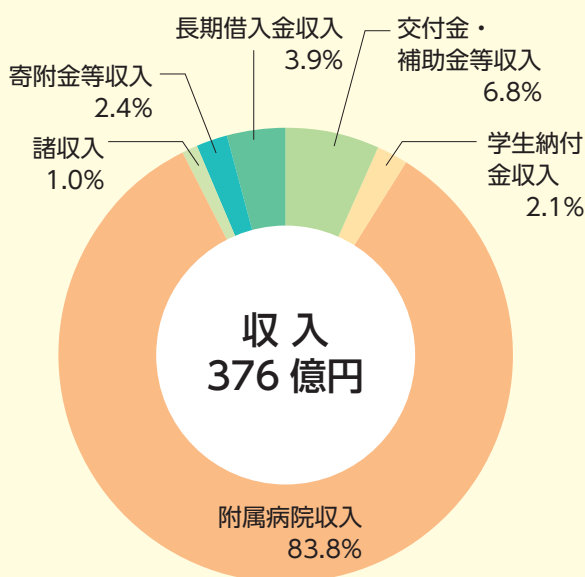
また中期計画に掲げられた各センターの運営を行うなど、中期計画の円滑な遂行にも取り組みます。

法人の更なる発展のため、効果的な投資を行っていく一方で、引き続き経営改善に向けた取り組みを進めて参りますので、教職員のみなさんには、それぞれの分野でのご協力をよろしくお願いいたします。

## 平成 26 年度予算の内容

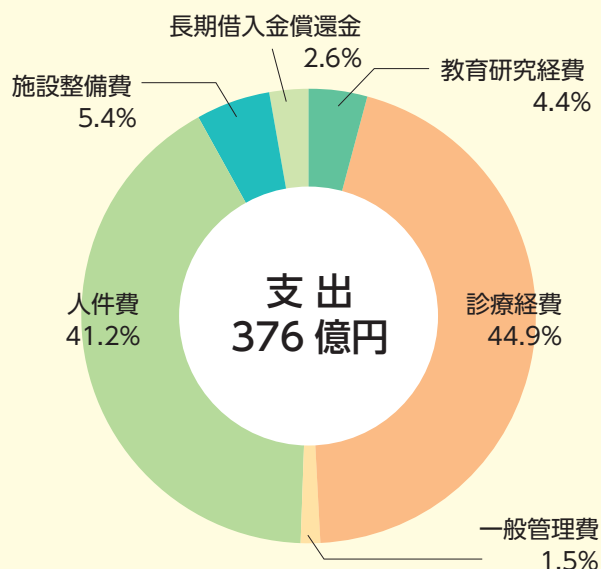
### 【収入】

項目	予算額	構成比
法人が自ら得た収入 (自己収入)	327.3 億円	86.9%
附属病院の診療報酬等 (附属病院収入)	315.6 億円	83.8%
学生が納付した収入 (授業料・入学金・入学検定料)	7.9 億円	2.1%
その他の収入 (諸収入)	3.8 億円	1.0%
他機関等からの支援 (交付金・補助金)	25.5 億円	6.8%
県からの支援 (運営費交付金等)	21.8 億円	5.8%
国等からの支援 (補助金収入)	3.7 億円	1.0%
職員が集めた収入 (受託研究・寄附金等収入)	9.1 億円	2.4%
借金の借入 (長期借入金収入)	14.5 億円	3.9%
<b>収入計</b>	<b>376.4 億円</b>	<b>100.0%</b>



### 【支出】

項目	予算額	構成比
義務的に支払う必要のある経費 (人件費、償還金)	164.6 億円	43.8%
職員への給与の支払い (職員給与)	150.9 億円	40.2%
退職手当の支払い (退職手当)	3.9 億円	1.0%
借金の返済 (長期借入金償還金)	9.8 億円	2.6%
業務の運営に必要な経費 (業務費等)	190.9 億円	50.8%
大学での教育研究に必要な経費 (教育研究経費)	16.5 億円	4.4%
附属病院での診療に必要な経費 (診療経費)	168.8 億円	44.9%
法人の運営全般に必要な経費 (一般管理費)	5.6 億円	1.5%
施設整備や医療機器購入経費 (施設整備費)	20.4 億円	5.4%
<b>収入計</b>	<b>375.9 億円</b>	<b>100.0%</b>
<b>収支差</b>	<b>0.4 億円</b>	



## 平成 26 年度予算の主要事業・新規事業

### 地域貢献

(適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上)

- 県立医大医師派遣センターの運営
- 県費奨学生配置センターの運営 19,700千円  
県内の医師派遣システムを適切に実行

- New** 看護実践・キャリア支援センターの運営 25,800千円

看護学科卒業生の県内定着の促進及び学生・看護師のキャリア支援



- New** 県民健康増進支援センターの運営 24,500千円  
市町村や県の健康増進事業への協力、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供

### 教育部門

(学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保)

- New** リベラルアーツ充実事業 3,000千円  
学生への一般教育授業を充実

- 学生アメニティ向上事業 10,700千円(H25 13,600千円)  
学生が利用する学内施設設備等の整備や課外活動の支援など、学生生活の向上を図る



### 研究部門

(研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実)

- New** 大和漢方医学薬学センターの運営 11,300千円  
産学官連携による漢方医学の研究等、奈良の産物を生かし、地域に役立つ独自性のある研究を推進

- New** 研究評価委員会の運営 3,700千円  
研究の適切な成果評価を行うため、外部有識者を含む評価委員会を設置・運営

### 診療部門

(法人の将来を見据えた大規模な投資、患者サービスの向上、病院機能の充実)

- E病棟整備事業 389,000千円(H25 4,156,600千円)  
中南和地域における高度医療拠点病院として機能充実を図るため、新棟を整備

- E病棟整備関連アメニティ整備 81,100千円(H25 184,000千円)  
E病棟整備に関連して、既存病棟のアメニティを充実(病院1,2階の廊下改修)

- New** 病院機能の改善 183,500千円  
旧救急棟1階をコンビニエンスストア等に改修、玄関庇改修、周術期管理センター設置、総合診療科の移転改修

- 医療用備品の整備 1,000,000千円(H25 1,000,000千円)  
県からの長期借入金で財源とし、総額10億円の医療用備品整備枠を確保

### まちづくり

(医科大学を中心としたまちづくりの推進)

- 大学移転推進事業 75,300千円(H25 44,900千円)  
老朽化施設整備やキャンパス移転の計画策定支援、施設整備基本構想の策定支援



### 管理部門

(法人組織の円滑な運営・福利厚生充実、事務の合理化の推進)

- 情報システムの整備・運営 64,900千円(H25 23,500千円)  
情報セキュリティの強化のための職員研修、パソコン等の一括購入、ファイルサーバーの導入など

- New** 防災対策整備事業 10,000千円  
食糧、飲料水、資材など災害時のための備蓄品を調達

- New** 看護学科10周年記念事業 3,000千円  
平成26年度で開設10周年を迎える看護学科の、開設10周年記念式典の開催、記念冊子の発行

## 産学官連携だより

### 平成 24 年度 産学連携等の実施状況調査 初めてのランクイン

文部科学省では、産学連携等施策の企画・立案に反映させることを目的として、大学等における産学官連携等の実施状況調査（以下「実施状況調査」という。）を毎年行っています。昨年 12 月 13 日に平成 24 年度における実施状況のとりまとめが公表されました。

本学では、平成 23 年度に産学官連携推進センターを立ち上げ、平成 24 年度からは大野特任教授を当センターに配置し、産学官連携活動に精力的に取り組んでいるところですが、平成 24 年度の実施状況調査の個別実績（民間企業との共同研究に伴う 1 件当たりの研究費受入額）において、29 位となり、初めてランクインしました。

民間企業との共同研究に伴う 1 件当たりの研究費受入額（単位：千円）

No.	機関名	1 件あたり受入額	件数	区分
1	光産業創成大学院大学	6,721	12	私
2	京都大学	4,922	800	
3	慶應義塾大学	4,459	344	私
4	東京医科大学	4,340	10	私
5	名古屋工業大学	3,913	220	
6	久留米大学	3,475	22	私
7	東北大学	3,231	709	
8	東京大学	3,205	1,207	
9	金沢医科大学	3,185	13	私
10	豊田工業大学	3,168	28	私
11	横浜市立大学	2,952	33	公
12	大阪大学	2,917	825	
13	東京理科大学	2,908	174	私
14	東京女子医科大学	2,767	12	私
15	名古屋大学	2,741	391	
16	埼玉医科大学	2,637	13	私
17	東京工業大学	2,623	454	
18	九州大学	2,476	536	
19	関西学院大学	2,431	33	私
20	自然科学研究機構	2,410	33	
21	東京都市大学	2,300	20	私
22	関西医科大学	2,299	10	私
23	中央大学	2,278	42	私
24	岐阜薬科大学	2,268	36	公
25	広島市立大学	2,233	10	公
26	早稲田大学	2,215	213	私
27	大阪工業大学	2,173	21	私
28	東京慈恵会医科大学	2,171	22	私
29	奈良県立医科大学	2,144	25	公
30	奈良先端科学技術大学院大学	2,085	70	

※件数が10件未満の機関は除く。

※文部科学省 平成24年度 大学等における産学連携等実施状況についてより抜粋  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/sangaku/1342314.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1342314.htm)

### 広域大学知的財産管理アドバイザー派遣 事業のご報告

独立行政法人工業所有権情報・研修館（略称：INPIT）では、大学等から創出される有用な技術を実際に捕捉して、適切な権利保護・活用を行える仕組みづくりを広域で推進するため、複数の大学等で構成される広域ネットワークへ、大学の知的財産管理に関する専門家を派遣しています。

本学では、平成 23 年度から近畿・中部地区の医系大学により広域ネットワークを形成し、杉原長利アドバイザーの派遣を受け、知的財産管理に関する取り組みを行ってまいりました。その活動の一環として平成 24 年度、25 年度と連続してネットワークによる JST 新技術説明会を開催し、広域大学ネットワークに加入する大学の研究シーズを産業界に向けて発信しました。各大学では発表した研究シーズに関心のある企業との活用に向けた協議（＝産学連携）が行われています。

また、3 月 17 日には当該事業の採択を受けている広域大学ネットワーク公開成果発表会が、東京の発明会館ホールで開催され、研究推進課の米坂係長が新技術説明会でのシーズ発表についての成果報告を行いました。

### 第 39 回発明大賞 発明功労賞 受賞

#### 受賞タイトル

「**難病 TTP の診断に有用な酵素の活性測定法と使用する抗体**」  
 （共同発明者：輸血部 藤村吉博教授、松本雅則准教授、日裏久英非常勤講師）※平成 26 年 3 月 18 日表彰時

日刊工業新聞社ならびに日本発明振興協会主催の「第 39 回（平成 25 年度）発明大賞」において、アルフレッサファーマ（株）の加藤誠司様が、発明功労賞を受賞されました。

受賞対象の発明は、TTP（血栓性血小板減少性紫斑病）の原因となる酵素（ADAMTS13）活性を簡便に測定する方法で、従来 2-3 日要していた ADAMTS13 活性の測定時間を短時間（3 時間）でかつ高感度に測定することができ、その結果、TTP の早期診断や治療に貢献するものです。

発明大賞は、「中堅・中小企業の優秀な製品・技術に光を当てて、わが国の科学技術、産業の発展に寄与する」ことを趣旨とした表彰制度です。本件が表彰を受けたことは、本学の藤村教授らの研究成果が、国の科学技術、産業の発展に寄与していると広く認められたものと言えます、本学にとっても大変名誉なことです。

**おめでとうございます !!!**

## 第 21 回 中島佐一学術研究奨励賞受賞者が決定しました

奈良県立医科大学において、医学の学術研究に優れた業績等をあげた若手教員を対象とした中島佐一学術研究奨励賞に、9 件の応募を頂きました。平成 26 年 2 月 25 日に開催された選考委員会で慎重に審議した結果、次の 3 名の方々が受賞の栄冠に輝きました。おめでとうございます。

所 属	氏 名	研 究 テーマ
病原体・感染防御医学	王 寺 幸 輝	皮膚および付属器官におけるシグナル伝達の解析と発毛再生医療への応用
小児科学	武 山 雅 博	プロテイン C およびプロテイン S による凝固第Ⅷ因子の制御機構の解明および新規血友病治療製剤への応用
第三内科学	野 口 隆 一	慢性肝疾患におけるレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系のクロストーク

## ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました

2月10日(月)、ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました。

この研修会は、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針(平成13年3月29日(平成25年2月8日改正)文部科学省、厚生労働省、経済産業省)」に規定されている“すべての研究者は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究の実施に先立ち、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する教育及び研修を受けなければならない。”の一環としてこのたび初めて開催しました。

講師には、京都大学医学研究科附属ゲノム医学センター・疾患ゲノム疫学解析部門 准教授の田原 康玄先生をお迎え

し、「ヒトゲノム研究における留意点」と題してお話しいただきました。今後も定期的開催していく予定です。



講演いただいた田原先生と研修会の様子

## 第3回 女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました

優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進等に資することを目的として、平成23年度に創設された「奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞」については、今年度の受賞者を2月18日に開催した選考委員会で中央臨床検査部の水野麗子講師に決定しました。

3月4日に厳樞会館大ホールで表彰式及び記念講演会を実施し、女性研究者支援センターの喜多前センター長より賞状、奨励金並びに記念品が授与されました。授賞式の後、水野講師からは「高血圧症における心筋微小循環障害と降圧治療の関連について～心筋微小循環からみた至適降圧レ

ベルとは～」と題した記念講演を行っていただきました。



喜多前センター長(左)、受賞された水野講師(中央)、所属長の山崎部長(右)

## ハラスメント防止研修会を実施しました

1月27日、独立行政法人労働政策研究・研修機構副主任研究員である内藤忍氏を講師に迎え、「職場のいじめ・嫌がらせ、パワーハラスメントの予防・解決に向けて」と題してハラスメント防止研修会を実施しました。今回は医療安全推進室との共催で医療安全管理研修会を兼ねての実施となり、276名の参加をいただき、会場は立錐の余地もないほどの盛況な研修会となりました。

内藤講師からは職場のハラスメントの現状やハラスメントが及ぼす影響、職場でハラスメントが起こる背景や要因、さらにハラスメントに関する国の動向や労使の取組みのあり方、管理・監督者が果たすべき役割などについて、幅広い話題でお話しいただきました。



講演いただいた内藤講師

りがその行為をパワーハラスメントと見ていなくても、本人はハラスメントを受けていると感じている場合、どう対応すればいいのか」など活発な質疑が行われ、研修会後のアンケートでは、「管理職の意識を変えることが必要」「具体的な事例もぜひ聞いてみたいと思った」「相手に対してパワハラな発言や言動を行っていないかを振り返る機会となった」などたくさんの感想をいただきました。



たくさんの方に参加いただきました

質疑応答では「周

## 女子中高生の医理系進路選択支援「医理系の研究って、すっごくおもしろい！」を開催しました

内閣府が公募した「男女共同参画社会づくりに関して、国民的な取り組みを推進するための事業」として本学の企画案が採択され、1月11日、奈良県文化会館において女子中高生の医理系進路選択支援「医理系の研究って、すっごくおもしろい！」を実施しました。このイベントは女子中高生を主な対象とし、医理系分野への興味・関心を高めてもらうことを目的に、内閣府、男女共同参画推進連携会議、一般社団法人奈良県医師会及び一般社団法人大学女性協会奈良支部との共催により行ったものです。

午前の部の基調講演とパネルディスカッション、午後の部のサイエンスカフェと2部に分けて実施し、延べ約100名の方に参加いただきました。

午前の部では、ロールモデルの提示として本学病理診断学講座の大林千穂教授、奈良女子大学研究院生活環境科学系の森本恵子教授による基調講演が行われました。



基調講演いただいた大林教授

大林先生は「私の進んできた道、そしてこれから」というテーマで、これまでの経歴、実際に毎日仕事をしている研究室の様子を紹介するとともに、日々の学習・仕事の中に面白みを感じることの大切さを伝え、「一本道を真っすぐ進むだけの人はいない。成功する人もいろいろな岐路を経ています」と参加した女子中高生たちにエールを送られました。

また、森本先生は「医理系研究は“くせ”になる？」と題し、研究を始めるようになるまでの経緯、研究の面白さに目覚めたきっかけ、自身の研究内容の紹介などについて時折冗談を交えてご講演くださいました。最後に「人生は何が起きるかわからない。自分を磨き、これが専門と言える何かを持って」と学生たちを励まされました。



パネルディスカッションの様子

続いて女性研究者4名によるパネルディスカッション「女性が医理系分野で研究するには」では、自身の学生時代の思い出や医理系進路を選択した理由、キャリア形成上での苦労話などについてディスカッションが行われました。会場からは「学生時代に勉強する意味」等についての質問があり、参加した学生たちはその答えにうなずきながら興味深く真剣に耳を傾けていました。

午後のサイエンスカフェでは本学女性教員が普段行っている研究内容を女子中高生に紙芝居形式でわかりやすく解説。最後にクイズや質問コーナーを設け、参加者が気軽にサイエンスに触れることのできる場としました。また、身近な将来像を描いてもらえるように各カフェテーブルに本学女子学生をチューターとして配置し、和やかな雰囲気の中、活発な議論が交わされました。



サイエンスカフェ

## 県民公開講座「がんタウンミーティング」を開催しました

### 緩和ケアセンター 臨床心理士 厚坊 浩史

1月19日に橿原文化会館において当院主催「県民公開講座 がんタウンミーティング」を開催し、123名が参加されました。これは厚生労働省が「診断時からの緩和ケア」を推奨している一方、まだ「終末期のもの」「治療の手立てがない時の方法」というイメージがあるため、緩和ケアの正しい普及啓発を目的として、第2期奈良県がん対策推進計画に基づいて開催されたものです。

まず「がんと診断されてからの緩和ケアとは？」と題し、四宮敏章先生（当院緩和ケアセンター長）が「緩和ケアで、がんに伴う心身のつらさを和らげると生活が楽になる。でも緩和ケアは勝手にやっこない。自分から主治医に伝えてほしい。」と話され、また患者さんが「緩和ケア＝末期と思っていたが、そうではなかった。今は楽に生活しています」と生き活きと話されました。次いで、河田安浩先生（ちゅうわ往診クリニック院長）が「もし末期がんになったら、人生の最期をどこで迎えますか？」



と題し、「人生の終の棲家をどこにされるか、誰と過ごしたいか」と、実臨床を交えて話されました。在宅で最期を迎えるメリットとして「次世代に看取りを経験させ、死を知ること」と語られたことが非常に印象的でした。また、講演と同時にを行った「がんに関する悩み相談（無料）」にも2名の相談者が訪れました。アンケートに「夫を看取ったのですが、もっと早くに緩和ケアにお世話になっていたら良かった」と記入された方がおられました。

今回の開催により、患者さんやご家族の負担やつらさが和らぐこと、それにより主治医をはじめ医療者も治療が進めやすくなること、また在宅緩和ケアの役割を参加者の皆さんと共有できる時間になったと思います。そして、緩和ケアを受けることで心身が楽になる、QOLが向上することを改めて確認でき、今後ますます普及・啓発に取り組んでいきたいと考えております。講師の先生をはじめ、実行委員の皆様、本当にお疲れ様でした。

会場の様子と配布した啓発用ボールペン



会場の様子と配布した啓発用ボールペン



## 臨床研修修了式を開催しました

### 臨床研修センター 准教授 赤井 靖宏

医・歯学部を卒業した学生が一人前の医師あるいは歯科医師として活動するためには、卒後に医科で2年間、歯科で1年間の初期臨床研修を修了することが義務付けられています。本学附属病院においても毎年多くの医科あるいは歯科研修医が初期臨床研修医として修練しています。この初期臨床研修を修了すると晴れて何の制限もなく、医師あるいは歯科医師として活動することが可能となるため、研修医にとって初期研修修了は待ちに待った瞬間であり、専門医研修などの次のステップへ羽ばたく踏み台となります。

平成25年度は、49名の医科研修医、5名の歯科研修医が晴れて初期研修を修了する見込みとなり、平成26年3月14日に臨床研修センターで研修修了式が古家仁病院長、福井博研修センター長・臨床研修管理委員会委員長、川上哲司歯科・口腔外科医局長の御臨席のもとで挙行されました。古家病院長からは、研修医の今までの修練を労うとともに、これからの医療環境の厳しさに備えて、さらなる研鑽を積むようにとの祝辞をいただきました。また、研修修了生を代表して、医科からは数本仁美研修医が、



修了式

歯科からは河上真緒研修医が今までの指導医やメディカルスタッフの皆さんからの温かい指導、患者さんからの教えに感謝し、これからさらなる研鑽を積む決意を述べました。

研修修了式終了後には、JR 畷傍駅近くの Jour Ferie (ジュール・フェリエ) で、研修修了を祝うとともに、指導医の先生方の今までの御指導に感謝する祝宴が開催されました。祝宴は、福井博研修センター長の祝辞と乾杯の発声とともに始まり、臨床研修医、臨床研修歯科医に加えて、多くの診療科から指導医の先生方に参加いただきました。祝宴の中で、参加いただいた指導医の先生から、研修修了生に対するお祝いのお言葉と今後の修練への激励を込めたお言葉を多数いただきました。今後さらなる専門医研修を開始する研修修了生にとって、指導医の先生方のお言葉は今後の励みになるとともに、さらなる精進を誓う契機になったことは間違いありません。

本年度研修を修了する医科研修医、歯科研修医に対して厳しく、しかし温かい指導をして下さった各科指導医の先生方やメディカルスタッフの皆さん、研修医を温かく受け入れ様々のことを教えて下さった患者さんに深謝して稿を閉じたいと思います。



修了報告会

## 認知症疾患医療センター研修会を開催しました

### 精神医療センター 道崎 真平

平成26年3月5日(水)、厳糧会館3階大ホールにおいて、認知症疾患医療センター第1回研修会を開催しました。今回の研修会では、県内のかかりつけ医や関係機関を対象に地域の認知症対応力向上を図るため実施しました。

当日は定員を超えた62名の参加が見られ、非常に認知症に対する関心の高さがうかがえました。

講演はセンター担当医師である精神科安野准教授より「認知症の診断と治療～最近の動向を踏まえて～」と題してアルツハイマー型認知症の診断や治療について、画像や



安野准教授

最新の研究などを紹介しながら講演しました。続いて、同じくセンター担当医師である松岡医師より「認知症疾患医療センターの案内」と題して実際の鑑別事例を交えながら当院の鑑別の流れについて講演しました。

講演後は質疑応答をおこない、会場からは非常に活発な質問や意見が飛び交いました。

今後も認知症疾患医療センターでは、鑑別診断や研修会等を通じて認知症疾患に対する保健医療水準の向上を図るとともに、認知症医療等の連携の拠点としての役割を果たしていきたいと思っています。



当日の様子

## 院内コンサート～お箏(こと)の音色～

### 脳神経外科 医局秘書 奥田 友理

2月10日(月)に院内コンサートでお箏を演奏させていただきました。日本の伝統楽器、お箏。和食のお店やテレビから流れてくる音色は聴いたことがあるけど、生演奏は初めてという方が多いのではないのでしょうか？院内コンサートでもお箏は初めてのことでした。お箏は長さが約190cmもあります。絃は13本。右手の親指、人差し指、中指に爪をつけて弾きます。左手もつかいます。意外と大きな音が出ます。

さて、演奏グループ『沢井箏曲院 勝美会』は、今井町を拠点として活動しています。古い町並みからお箏の音色がどこからともなく聴こえてくる…なんて、なんだかほっこりし



勝美会のメンバー

ませんか？勝美会では、奈良県や橿原市をはじめ、他市町村イベントなどを中心に演奏しています。

今回、お箏はとっつきにくいという方のために親しみやすい曲を選びました。ジブリ映画の曲(天空の城ラピュタ『君をのせて』、千と千尋の神隠し『いつも何度でも』)や民謡(『ソーラン節』『木曾節』『子守唄])など、どこかで聴いたことあるなあ…という曲です。アンコールでは、唱歌集メドレーをみなさんに大きな声で歌っていただき、出演者一同とてもうれしく思いました。

普段の生活ではなじみのない楽器ですが、お箏の音色で少しでも気分が明るくなったり、心地よく感じてもらえれば…と願って演奏しました。

今回はこのような貴重な機会を与えていただきありがとうございました。また聴きたいと思っていただけるような演奏ができるよう、これからもがんばります。



コンサートの様子

## 医療安全・感染対策の職員研修の充実に取り組んでいます

### 病院管理課

医療安全管理及び院内感染対策についての職員研修は、病院における医療の安全を確保する体制の柱の一つとして極めて重要であり、医療法でも病院の取り組むべき責務として規定されているところです。その重要性に鑑み、これまでも職員研修を推進してきたところですが、未受講者が生じるなどの課題も抱えていました。

これらの課題を受けて、病院管理課、総務課、経営企画課、医療安全推進室、感染症センター感染管理室の関係する5つの部署が集まりミーティングを重ね、原因の分析、対応策の協議を行いました。また、これらの成果を「医療安全管理・院内感染対策職員研修基本計画」としてまとめ、病院運営協議会の承認も得て、本年2月に病院全体で実現を図る基本計画として策定に至ったところです。

この基本計画では、まず取組目標として、採用時基本研修について「採用された研修対象者は全員が受講するようにする」、テーマ研修について「研修対象者は年2回以上受講するようにする。特に年1回も受講しない職員をなくす」ことを掲げました。これらを実現するために、研修対象者を明確にするとともに、研修対象者名簿の作成手順も明確にしま

した。また、これまで集合研修に偏っていた研修実施方法にDVD視聴研修も加え、勤務実態にも配慮するものとなりました。さらに研修会の周知を充実するとともに、研修参加状況の所属長等への通知や年度終盤には未受講者本人への通知も行います。研修会場の改善やe-ラーニングによる研修実施の検討にも取り組むこととしています。

医療安全・感染対策に関する院内外の状況は常に変化し、新たな課題も発生します。最新の情報を提供するなど、より良い研修の実施に向けて、関係部署が連携して取り組みますので、皆様のご理解と積極的な研修参加をお願い申し上げます。



院内感染防止セミナーの様子

## 長期療養児童在宅医療・在宅訪問推進研修会活動

### NICU 教授 高橋 幸博

奈良県立医科大学の新生児集中治療部（以下NICU）では、口腔外科の医師、歯科衛生士、NICUおよび小児科看護師、医療技術センター技師、リハビリ科等多種職の職員、本学ならびに奈良県地域医療連携課の協力を得て、奈良県訪問看護ステーション協議会の訪問看護師、県内の療育施設の医師・看護師、養護学校職員を対象に平成20年から長期療養児童在宅医療・在宅訪問推進研修会（以下研修会という。）を年1回開催しています。

この研修会の目的は、奈良県内のNICUならびに小児病棟を退院後も、長期にわたり療養を必要とする児童（以下長期療養児という）及びその家族が安心して在宅生活を送れるよう、長期療養児の在宅医療・在宅訪問に関わる関係者の知識・技能を図るものです。研修会を開始後、年々着実に成果が得られており、平成21年からNICUと奈良県地域医療連携課とで行ってきた新生児蘇生講習会を奈良県産婦人科医会に移管したことで、平成25年から開催回数を増やし、これまで

開催してきた研修会をジュニアコースと位置づけ、平成25年度はジュニアコースを平成25年12月7日（土）、平成26年2月15日（土）の2回開催し、新たに、より一歩進めた応用知識の習得を目的としたシニアコースを平成25年8月31日（土）に開催しました。

研修内容は、ジュニアコースは心肺蘇生法、吸引・経管栄養法、在宅人工呼吸器の取り扱い、口腔ケア、体位排痰法等で、シニアコースは緊急・災害時への対応、奈良県立医科大学で購入した高機能患者シミュレータECSでの実習、中心静脈管理法、栄養管理法、口腔ケアを行いました。方法は少人数のグループに分けて、各研修内容の実技ブースを一巡する方式で約2時間です。

これまでの参加者は、主に県内の在宅訪問看護ステーションの看護師等で県内の訪問看護ステーション54カ所と、医療型障害児入所施設等7カ所の延べ人数167名がジュニアコースを修了しています。その結果、当院NICU/小児科では23名の在宅人工呼吸器装着児、30名の気管切開児を含む多くの長期療養児が、研修修了後の訪問看護ステーションの協力も得て在宅医療管理が行えています。

今後も研修会を引き続き開催していくことで、より奈良県内の長期療養児の円滑な在宅医療を支援していく所存です。



モデル人型での気管切開カニューレ交換の自習



平成25年度研修会参加者

## 部門紹介

### B病棟4階

B病棟4階（整形外科病棟）は、乳児から老年までの幅広い発達段階の患者さんが対象です。骨や関節・筋肉等の機能障害や痛みのためにQOLの低下した患者さんが、手術療法を目的に入院されます。整形外科看護の特徴として、術後は術部の安静を守りながら、その部位以外の廃用症候群予防を行います。その後はできる限り患者さんの自立を引き出すために、患者さんと共に機能訓練の計画をたて、社会復帰のための支援を行います。そして退院までの過程で、危険防止や安全に留意し患者さんの立場になって環境調整を行います。また、手術により身体的に外観が変化（ボディイメージの変化）する場合もあります。予測ができる場合には、自己のボディイメージの変化を受け入れられるように、患者さんへの精神的な関わりが重要となります。手術前には患者さんの不安を傾聴しながら、患者さん自身がイメージ化できるような関わり

りを大切にしています。そして手術後には残存機能を最大限に活用しながら、社会復帰に向けての機能回復とQOL向上のための計画を患者さんと一緒に考えています。

医師や理学療法士、薬剤師等と共に、チーム力で一人ひとりの患者さんの安全とQOL向上を目指しています。



### B病棟5階

B病棟5階（脳神経外科病棟）は、幅広い健康レベルを対象とします。手術前後の看護、片麻痺や言語障害を抱えた状況でのリハビリテーション期、障害の受容・生活行動の再獲得・社会復帰への援助を行う回復期、脳卒中再発予防のための日常生活指導を行う慢性期、家族に対する看護が中心となるターミナル期などです。このように脳神経外科看護は幅広い活動と多職種との連携をとることで、多くの患者さんや家族の不安を解消し、回復へ向けた希望を与えています。

平成23年9月からSCUが開設されました。SCUでは脳卒中超急性期の患者さんに対し、重篤化回避に向けた看護介入と急性期から退院後の生活を念頭に置いた早期からのリハビリテーションを実施しています。平成26年12月からは奈良県脳卒中地域連携パスを使用し、回復期リハビリテーション病院への転院を勧め、患者さんが早期に自宅に帰れること

を目指しています。

忙しい病棟ですが障害のある患者さんやその家族に向き合い、様々な治療や看護を実践する中で、関われば関わるほど良い応と結果があり、やりがいを持って看護実践できる病棟です。



### B病棟6階

B病棟6階は消化器外科・小児外科・乳腺外科病棟です。

入院目的の6割が手術療法、3割がターミナル期や化学療法・放射線療法などの慢性期治療、1割が短期治療・検査の患者さんです。年齢別では60歳代、70歳代が60%以上を占め、続いて50歳代、80歳代です。一方で小児外科治療も行っているため、1歳未満の患者さんも入院され、様々な年齢の方が入院される病棟です。外科病棟とはいえ急性期からターミナル期まで各期の特徴をふまえた看護、継続した看護を実践しています。

手術日は月曜日から金曜日で、その他にも内視鏡手術やIVR、照射、化学療法を行なっています。様々な治療を受けながら在宅で生活をされている方の急性増悪に対応するため、緊急入院も速やかに受け入れるように努力しています。

平成26年3月には認定看護師が3名（がん化学療法看護、乳がん看護、緩和ケア）となりました。入院期間が短縮される中、パスに準じた周術期看護、ストーマの自己管理習得への援助、乳腺外科看護、ターミナルケア、退院調整と幅広い

看護がますます要求されていくことを実感しています。

患者さんの状態別チーム編成、それに伴った看護師の教育プランがあり、計画的・段階的に所属の中でも看護師のスキルアップを図れるよう環境を調整しています。

今後も医師や他職種と協働し、患者さんの治療・看護に全力で対応したいです。



# 平成 25 年度後期 公開講座「くらしと医学」を開催しました

25 年度後期の公開講座を、3 月 1 日（土）に奈良市のなら 100 年会館 大ホールにて開催しました。

平成 6 年度から始まったこの講座も、今回で 32 回目となりました。当日は、約 560 名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。

吉岡前学長あいさつ



聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。また、日ごろの悩みなど、多くの質問もありましたが、演者の適切な回答に納得していました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の方に、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的としています。26 年度前期の予定は下記のとおりです。



小西教授



藤村教授



細井学長

● 吉岡章前学長あいさつ

● 講演

① 小西 登 教授（病理病態学）  
「がんの病理診断と治療への関わり」  
（座長：車谷 典男 教授）

② 藤村 吉博 教授（輸血部）  
「献血された血液による輸血医療の実際」  
（座長：吉岡 章 前学長）

③ 細井 裕司 学長  
（当時：耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授）  
「どうして聞こえない？ どうしたら聞こえる？  
～聞こえのための奈良医大発の新発見と  
補聴器・スマートフォンへの応用～」  
（座長：小西 登 教授）

～次回公開講座の予定～

- 日 程／平成 26 年 9 月 20 日（土）
- 時 間／13：00～15：30
- 場 所／橿原文化会館 大ホール

(研究推進課)

## 平成 25 年度 学会等における論文賞等の受賞一覧

※職名は受賞時の名称

所属	受賞者 職名・氏名	賞の名称	受賞論文等	受賞日
循環器システム 医科学	助教 坂部 正英	日本血管生物学会 Young Investigator Award 優秀賞	Roles of the Hrt family of Notch downstream transcription factors in endothelium during cardiovascular morphogenesis	平成 25 年 9 月 28 日
		日本先天異常学会優秀ポスター賞	心内臓形成における新規膜タンパク Tmem100 の意義	平成 25 年 7 月 23 日
		TAKAO International Symposium Excellent Poster Award	Roles of the Hrt family of Notch downstream transcription factors in endothelium during vascular development	平成 25 年 7 月 14 日
医学科	学生 稲田 賢	TAKAO International Symposium Excellent Poster Award	Tmem100, a novel intracellular transmembrane protein, regulates endothelial-mesenchymal transformation during endocardial cushion development	平成 25 年 7 月 14 日
解剖学第一	助教 堀井 謙子	日本内分泌学会若手研究奨励賞	視床下部領域に新たに同定されたペリニューロナルネット陽性細胞を含む神経核について	平成 25 年 10 月 26 日
分子病理学	講師 世平 智則	2013 年日本病理学会学術奨励賞	口腔癌における血管新生・リンパ管新生因子の研究	平成 25 年 6 月 6 日
	助教 羅 奕	第 32 回分子病理学研究会優秀演題賞	癌エネルギー代謝における癌宿主相互作用	平成 25 年 7 月 21 日
小児科学	博士研究員 松本 智子	第 34 回日本血栓止血学会学術集会優秀ポスター賞	新規 Thrombin/Plasmin Generation Assay による凝固線溶能の評価	平成 24 年 6 月 9 日
泌尿器科学	名誉教授 平尾 佳彦	第 13 回カールストルツ賞	日本泌尿器内視鏡学会における功績に対し贈呈	平成 25 年 11 月 8 日
	教授 藤本 清秀	第 51 回日本癌治療学会優秀演題	筋層浸潤性膀胱癌に対する術前 MVAC 療法の本 3 相試験：JCOG 0209	平成 25 年 10 月 26 日
	助教 三宅 牧人	第 27 回日本泌尿器内視鏡学会総会 Young Endourologist Award	当科における蛍光膀胱鏡下 TURBT の治療成績	平成 25 年 11 月 9 日
消化器・総合 外科学	助教 庄 雅之	PanCAN Clinical Research Award	5FU 大量肝動注およびゲムシタピン併用による膵癌術後補助化学療法の有用性	平成 25 年 7 月 25 日
	講師 山田 高嗣	中島佐一学術研究奨励賞	iPS 細胞・ES 細胞を用いた人工腸管の臓器作製技術の開発	平成 25 年 6 月 4 日
	医員 長井 美奈子	PanCAN Young Investigator Award 1 位	膵臓十二指腸切除後 NAFLD 治療に関する多施設共同前向き臨床研究	平成 25 年 7 月 25 日
	医員 右田 和寛	平成 25 年度奈良県医師会学術奨励賞	Prognostic nutritional index (PNI) は胃癌患者の長期予後を予測しうる	平成 25 年 7 月 6 日
耳鼻咽喉・頭頸部 外科学	助教 西村 忠己	平成 25 年度第 13 回 SPIO Award	Benefit of a new hearing device utilizing cartilage conduction	平成 26 年
	医員 大山 寛毅	第 72 回日本めまい平衡医学会総会学術講演会優秀ポスター賞	メニエール病における体平衡障害に対する内リンパ嚢開放術の効果	平成 25 年 11 月 14 日
	助教 西村 忠己	第 20 回中島佐一学術研究奨励賞	骨導超音波聴覚の解明と臨床応用	平成 25 年 6 月 4 日
口腔外科学	大学院生 上山 善弘	第 67 回日本口腔科学学会学術集若手ポスター賞	難治性骨欠損における骨芽細胞シートを用いた骨再生法の検討	平成 25 年 5 月 24 日
	助教 今井 裕一郎	がん免疫栄養療法研究会 第 3 回症例検討会 優秀演題賞	口腔癌に対する術前化学放射線療法症例の EPA 配合栄養剤の有用性の検討	平成 25 年 7 月 20 日
	助教 青木 久美子	第 32 回日本口腔腫瘍学会総会学術大会優秀ポスター賞	S-1 投与ラットにおける味覚障害発症のメカニズムについての研究	平成 26 年 1 月 23 日
	診療助教 柳生 貴裕	第 32 回日本口腔腫瘍学会総会学術大会優秀ポスター賞	口腔上皮内腫瘍 (OIN) における CK13、CK17、Ki67 免疫組織化学染色：その診断精度と予後との関連について	平成 26 年 1 月 23 日
	医員 上田 順宏	第 31 回日本口腔腫瘍学会総会学術大会優秀ポスター賞 第 32 回日本口腔腫瘍学会総会学術大会優秀ポスター賞	下顎辺縁切除における切除範囲と形態の違いが強度にもたらす影響 ～ 3 次元有限要素法を用いて～ 長期安定性を考慮したプレート再建法 ～ 3 次元有限要素法を用いた解析～	平成 26 年 1 月 23 日
救急医学	助教 関 匡彦	AWARD SESSION	NEAR-INFRARED SPECTROSCOPY STUDY OF REGIONAL TISSUE OXYGEN SATURATION IN BURN INJURIES	平成 25 年 10 月 24 日
	助教 川井 廉之	第 75 回日本臨床外科学会総会 忘れられない Award	5 回の手術治療を経て独歩退院ができた肝損傷をともなう右房破裂の 1 例	平成 25 年 11 月 22 日
	助教 岩村 あさみ	奈良県医師会救急医学会学術奨励賞	磁化率強調画像をもちいた重症頭部外傷の予後予測の検討	平成 25 年 6 月 25 日
ペインセンター	医員 木下 真佐子	日本ペインクリニック学会優秀論文賞	特異性低筋液圧性頭痛における髄液漏出の検出には RI 脳造影よりも CT 脊髄造影が鋭敏である	平成 25 年 7 月 14 日
リウマチセンター	医員 藤村 貴則	APLAR Symposium 2013 Travel Grant	Non-steroidal anti-inflammatory drugs have an independent effect on synovial vascularity assessed by musculoskeletal ultrasound in rheumatoid arthritis	平成 25 年 8 月 30 日
看護学科 老年看護学Ⅱ	教授 水主 千鶴子	SINGAPORE HEALTH & BIOMEDICAL CONGRESS 2013 BEST POSTER AWARD 金賞	Characteristics of subjective QOL of elderly people with dementia in China and Japan	平成 25 年 9 月 27 日

# レポート

## 第25回 役員会 (1月8日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 教員の人事について
  - (2) 部局長選考について
  - (3) 教授候補者の選考に係る基本方針について
  - (4) 奈良県立医科大学アドミッションポリシー等の改正について
  - (5) 大和漢方医学薬学センターの設置について
  - (6) 外国人客員研究員の受入れ期間変更について
- 2 看護職員採用試験において9名の合格者を決定

## 第13回 教育研究審議会 (1月9日)

- 1 教員の人事について2月1日付け及び4月1日付け採用、2月1日付け昇任、2月1日学内配置換え及び昇任を承認
- 2 各教育部長の選考に関し選考日程及び選考規程の改正を承認
- 3 教授選考(第一生理学)にかかる基本方針(案)を承認
- 4 奈良県立医科大学アドミッションポリシー等の改正を承認
- 5 大和漢方医学薬学センターの設置を承認
- 6 タイからの客員研究員の受入れ期間の変更を報告

## 第26回 役員会 (1月29日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 教員の人事について
  - (2) 研究医養成コース修学資金貸与規程の一部改正について
  - (3) 特任教員の配置について
- 2 副学長選考について推薦された候補者の承認及び選考の手続き等実施方法を承認
- 3 看護職員採用試験において3名の合格者を決定
- 4 平成25年度の財務状況(11月末現在)を報告
- 5 2月1日付けペインセンター 副センター長及び糖尿病センター センター長の病院長発令を報告

## 第27回 役員会 (2月5日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 部局長選考について
  - (2) 教員の人事について
  - (3) 特任教員の配置について
  - (4) 特任教員の人事について
  - (5) 任期制教員の再任審査について
  - (6) 研究助教規程の制定について
  - (7) 特任教員規程の一部改正について
  - (8) 大学機関別認証評価結果(案)について
  - (9) 大和漢方医学薬学センターに配置する副センター長及びその他の教員の選任について
  - (10) 大和漢方医学薬学センター運営委員会委員の選任について
  - (11) 大和漢方医学薬学センター運営委員会委員の改選について
- 2 副学長として、医学部長に車谷 典男氏、附属病院長に古家 仁氏を決定
- 3 平成26年度予算の内示状況を報告

## 第14回 教育研究審議会 (2月6日)

- 1 部局長選考にかかる候補者推薦要領を承認
- 2 教員の人事について、3月31日付け退職、3月1日付け及び4月1日付け昇任、4月1日付け採用、3月1日付け兼務発令を承認
- 3 大和漢方医学薬学センター、第三内科学教室及び地域健康医学教室からの特任教員配置を承認
- 4 大和漢方医学薬学センター 特任教員新規2名、第三内科学に新規1名、地域健康医学に更新1名の配置を承認
- 5 3月31日付けで任期満了となる任期制教員のうち再任申出のあった准教授1名、講師2名、学内講師1名、助教5名の再任を承認
- 6 研究助教規程の制定を承認
- 7 特任教員規程の一部改正を承認
- 8 大学機関別認証評価結果(案)を承認
- 9 研究医養成コース修学資金貸与規程の一部改正を承認
- 10 大和漢方医学薬学センターに配置する副センター長に特任教員 渡辺 賢治氏、その他の教員に特任教員 三谷 和男氏を選任
- 11 大和漢方医学薬学センター運営委員会委員に特任教員 三谷 和男氏を平成26年3月1日～3月31日

及び4月1日から平成28年3月31日まで選任

## 第15回 (臨時) 教育研究審議会 (2月12日)

- 1 免疫学教授候補者として伊藤 利洋氏を、輸血部教授候補者として松本 雅則氏を役員会に答申

## 第28回 役員会 (2月19日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 教員の人事について
  - (2) 寄附講座の設置期間の更新について
- 2 免疫学教授として伊藤 利洋氏を、輸血部教授として松本雅則氏を決定
- 3 精神性疾患等による休業した職員に係る職場復帰制度を定める規程を承認
- 4 学長及び副学長の選考方法等の今後の見直しについて承認
- 5 職員(臨床検査技師)採用試験において3名の合格者を決定

## 第29回 役員会 (3月5日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 教員の人事について
  - (2) 研究助教について
  - (3) 寄附講座教員の人事について
  - (4) 特任教員配置申請及び特任教員の人事について
  - (5) 病院教授について
  - (6) 教員の海外留学について
  - (7) 各種委員会の委員改選について
  - (8) 教育研究審議会の学外委員の再任について
  - (9) 平成26年度計画について
  - (10) 奈良県立医科大学学則の一部改正について
  - (11) 県民健康増進支援センターの設置について
  - (12) 看護実践・キャリア支援センターの設置について
  - (13) 研究評価委員会の設置について
  - (14) 平成26年度以降の女性研究者支援センターのあり方について
  - (15) 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」の改正について
- 2 部局長の選考について今後の進め方を承認
- 3 平成26年度予算案を承認
- 4 科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」により雇用する研究支援員に係る勤務規律・労働条件等の取扱要領の改正を承認
- 5 看護職員採用試験について6名の合格者を決定
- 6 平成25年度決算見直しを報告
- 7 奈良県監査委員監査結果を報告

## 第16回 教育研究審議会 (3月5日)

- 1 部局長の選考について今後の進め方を承認
- 2 教員の人事について26年3月31日付け退職、4月1日付け昇任、4月1日付け採用、4月1日学内配置換えを承認
- 3 先端医学研究機構(ラジオアイソトープ実験施設)に研究助教1名の採用を承認
- 4 血圧制御学講座に教員1名の採用を承認
- 5 産学官連携推進センターで特任教員更新3名及び新規1名、分子病理学で更新1名、皮膚科学で更新1名を承認
- 6 4月1日付けで准教授2名に対する病院教授の称号付与を承認
- 7 教員の海外留学について、眼科学助教1名の延長申請を承認
- 8 委員の任期が平成26年3月31日である各種委員会について、理事長、学長が任命する委員を理事長、学長一任することを承認
- 9 平成26年3月31日で任期満了となる教育研究審議会の学外委員 早稲田大学 池田 康夫教授について2年間の再任を承認
- 10 平成26年度計画を承認
- 11 臨床教授等の選考を承認
- 12 看護教育講師の称号付与を承認
- 13 奈良県立医科大学学則の一部改正を承認
- 14 県民健康増進支援センターの設置に係る規程等を承認
- 15 看護実践・キャリア支援センターの設置に係る規程を承認
- 16 人工関節・骨軟骨再生医学講座の設置期間の更新を承認
- 17 研究評価委員会の設置に係る規程を承認
- 18 平成25年度で文部科学省の補助が終了する女性

研究者支援センターの今後のあり方を承認

- 19 文部科学省において「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」が改正され、平成26年度から運用が開始されることを報告

## 第17回 (臨時) 教育研究審議会 (3月6日)

- 1 附属図書館長に第二内科学 木村 弘教授、看護学科長に看護学科精神看護学 軸丸 清子教授を承認
- 2 微生物感染症学教授候補者として矢野 寿一氏を承認し、役員会に答申
- 3 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教授候補者として北原 紀氏を承認し、役員会に答申

## 第30回 (臨時) 役員会 (3月6日)

- 1 附属図書館長に第二内科学 木村 弘教授、看護学科長に看護学科精神看護学 軸丸 清子教授を承認
- 2 微生物感染症学教授候補者として矢野 寿一氏を決定
- 3 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教授候補者として北原 紀氏を決定

## 第31回 役員会 (3月19日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 教員の人事について
  - (2) 地域医療学講座地域・へき地医療支援特任教員に関する要綱の制定について
  - (3) 特任教員の人事について
  - (4) 名誉教授称号授与について
  - (5) 看護学科老年看護学領域について
  - (6) 共同研究講座規程及び共同研究講座設置・管理に関する基本方針の制定について
  - (7) 福建医科大学との間における学術交流に関する協定書の更新について
  - (8) 平成25年度における職務発明等の認定、権利の承継、外国出願の可否等の決定結果について
- 2 役員会規程の一部改正を承認
- 3 料金規程等の改定を承認
- 4 平成26年度予算の概要を承認
- 5 平成26年度計画を承認

## 第18回 (臨時) 教育研究審議会 (3月19日)

- 1 教員の人事について、3月31日付け退職、4月1日付け昇任、4月1日付け採用を承認
- 2 地域医療学講座地域・へき地医療支援特任教員に関する要綱の制定を承認
- 3 看護実践・キャリア支援センターに特任教員新規1名、放射線腫瘍医学に更新1名、県民健康増進支援センターに新規1名、地域医療学講座で新規1名、更新2名を承認
- 4 吉岡理事長・学長、喜多副学長、輸血部 藤村教授に対する名誉教授の称号授与を承認
- 5 看護学科老年看護学領域の体制変更を承認
- 6 共同研究講座規程及び共同研究講座設置・管理に関する基本方針の制定を承認
- 7 福建医科大学との間における学術交流に関する協定書の更新を承認
- 8 臨床教授等の選考を承認
- 9 平成25年度における職務発明等の認定、権利の承継、外国出願の可否等の決定結果を報告

## 第19回 (臨時) 教育研究審議会 (3月27日)

- 1 研究部長に小児科学 嶋 緑倫教授を承認
- 2 一般教育部長に物理学 平井 國友教授、基礎教育部長に薬理学 吉栖 正典教授、臨床教育部長に神経内科学 上野 聡教授、看護教育部長に成人看護学 石澤 美保子教授を選考
- 3 教員の人事について、4月1日付け配置換え及び兼務発令を承認

## 第32回 (臨時) 役員会 (3月27日)

- 1 研究部長に小児科学 嶋 緑倫教授を承認
- 2 一般教育部長に物理学 平井 國友教授、基礎教育部長に薬理学 吉栖 正典教授、臨床教育部長に神経内科学 上野 聡教授、看護教育部長に成人看護学 石澤 美保子教授を承認
- 3 教員の人事について、4月11日付け配置換え及び兼務発令を承認
- 4 平成26年度の組織編制を承認
- 5 給与関係規程の改正を承認

# メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
今村 知明 教授 (健康政策医学)	毎日新聞 朝刊 2月7日 読売新聞 朝刊 2月18日 その他	〈両紙、論点に寄稿〉 食品防御の専門家として、また、第3者委員会委員長として、今回の事件の問題点と今後の対策について提言した 〈コメント〉 ・毎日新聞 2014/1/26 ・読売新聞 2014/1/26 ・産経新聞 東京 2014/1/28 ・日経新聞 2014/1/28 ・日経ビジネス 2014/1/10 ・朝日新聞 東京 2014/2/1 ・日経新聞 東京 2014/2/3 ・毎日新聞 2014/2/8
	関西テレビ『ANCHOR スーパーニュースアンカー』1月27日 読売放送『かんさい情報ネット ten』1月27日	〈テレビ出演〉 食品防御の専門家として、今回の事件の問題点を指摘し、食品防御の必要性を説いた
	TBS ラジオ『荻上チキ Session22』1月8日 TOKYO FM『TIMELINE (ニュース番組)』1月27日 NHK ラジオ『私も一言!夕方ニュース』1月30日	〈生放送出演〉 食品防御の専門家として、今回の事件の問題点を指摘し、食品防御の必要性を説いた
	NHK 総合・教育テレビ『視点・論点』2月26日	〈解説と提言〉 食品防御の専門家として、今回の事件の問題点を指摘し、食品防御の必要性について意識改革と心構えが必要であると提言した
細井 裕司 理事長・学長	朝日新聞 朝刊 1月31日 (金)	「MBT(Medicine Based Town) 医学を基礎とするまちづくり」の本が出版社である水曜社から紹介された。
小林 浩 教授 (産婦人科学)	NHK Eテレ 『きょうの健康 『月経痛がサイン!子宮内膜症』 2月5日 (水)	月経周期を有する女性の10人に1人が子宮内膜症になる。初期症状として月経痛が出現し、そして不妊症を合併し、閉経近くなると一部の子宮内膜症患者が卵巣癌になることがある。早期発見と予防対策について解説した。
渡辺 賢治 特任教授 (大和漢方医学薬学センター)	NHK『探検バクモン』 1月22日 (水)	タレントの爆笑問題が案内役となり、普段は入れないところなどに行き、外からはうかがい知れないことを解説する教養エンターテインメント番組。 『健康バクモン!漢方パワー』と題して、岐阜県の「内藤記念くすり博物館」で実際の漢方の診察や薬用植物の紹介などで漢方について分かりやすく解説を行った。

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。  
(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)

## 掲 示 板

本格的な春の到来…これからの季節、気を付けたいのが「紫外線」です。みなさんはいっ頃から紫外線対策をされているでしょうか？

紫外線が人体に与える影響を表す国際的な指標をUVインデックスといい、0～13の数値で表されます。目安としてUVインデックスが8を超える時は、外出の際に必ず日焼け止めや日傘等を利用するべきとされており、奈良でUVインデックス8以上の日が現れるのは5月上旬以降です(沖縄では3月下旬頃から!)。ゴールデンウィークの頃には、日中晴れていれば気温が高くなっても7～8月と同じくらいに強い紫外線が地上に届いています。お昼12時の前後2時間は、特に紫外線が強く要注意です。

気象庁などの紫外線情報も利用しつつ、日傘や帽子、日焼け止め効果の高いクリーム(目安:SPF30以上、PA++以上)などでこまめに対策しましょう。 教育支援課 T 気象予報士

## 編集後記

「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」は、人口に膾炙した劉廷芝の唐詩の一節で桃の花ですが、私たちは桜の花を思い浮かべます。この春には医学科看護学科併せて198名の新入生があり、また細井裕司教授が理事長に就任されたのと同時に、吉岡章理事長を始め多くの方々が退職や卒業され新たな門立ちをむかえられるなど大学は動いています。世界はウクライナやシリア情勢など混沌としており、日本も東日本大震災の復興や原発の問題は遅々として進んでいませんが、確実に時間は動いています。大学も移転問題や新しい診療報酬体系による大学病院の経営の問題など、新しい執行部のもと衆知を集めてさらに前進することが期待されます。

○岸本 年史 (精神医学) 橋本 顕子 (精神看護学) 吉田 一良 (病院管理課)  
藤本 雅文 (物理学) 堀口 陽子 (看護部) 森田 英之 (総務課・広報室)  
笹平 智則 (分子病理学) 藤谷 威行 (研究推進課) 植松 聡 (総務課・広報室)  
藤本 正男 (内科学第三) 永井 淳 (教育支援課) (○印は編集委員長)



創業明治42年

奈良ホテル

〒630-8301 奈良市高畑町1096

TEL. 0742-26-3300 (代表)

<http://www.narahotel.co.jp/>

広告